

平成27(2015)年度 シラバス

教科・科目名	理科・化学基礎	学年・学級	5年・文系	単位数	2
--------	---------	-------	-------	-----	---

1 年間の学習目標

学習目標	物質の構造と反応を理解し、化学的な事象や現象に関する探究活動を実践することにより、化学的な見方、および考え方を養うとともに、科学の発展・科学技術の進歩を体系的に捉え、日常生活とのかかわりについて理解を深める。
使用教科書・副教材等	教科書：新編化学基礎（数研出版） 問題集：リードα化学基礎（数研出版）

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查 範囲	考查に出題する要点 (合格ライン)
前期	4	①物質の構成と化学結合			第一 回 考 査	・純物質と混合物および単体と化合物を分類できる。 ・混合物に含まれる純物質の性質から適切な分離法を選択できる。 ・同素体を説明でき、具体例を挙げることができる。 ・元素の元素記号が書ける。
		(1)混合物と純物質	物質を混合物と純物質に分類できる。 混合物の分離・精製の方法を理解する。	混合物と純物質の分類 実験：混合物の分離（蒸留、ろ過、クロマトグラフィー）		
		(2)物質の成分	元素を元素記号で表せる。 純物質を単体と化合物に分類できる。 同素体を理解する。 成分元素の検出法を理解する。	元素の元素記号 単体と化合物の分類 単体と化合物の化学式 同素体の種類と特徴		
		(3)物質の三態と熱運動	物質の状態変化と熱運動の関係を理解する。	物質の三態と状態変化		
	5	②物質の構成粒子			第一 回 考 査	・電子配置の図が書ける。 ・イオンのイオン式および名称が書ける。 ・イオン化エネルギーと電子親和力を説明でき、各元素のイオンへのなりやすさに関連づけができる。 ・周期表における元素を種々の観点から分類できる。
		(1)原子とその構造	原子の構造を理解し、同位体が存在することを理解する。 原子の電子配置とそれに基づく価電子の意味を理解する。	原子の構造と同位体 原子の電子配置		
		(2)イオン	イオンの電子配置を理解し、多原子イオンの種類や化学式の表記を学ぶ。 原子のイオン化エネルギーと電子親和力を理解する。	イオンのイオン式 イオン化エネルギーと電子親和力		
	(3)周期表	元素の周期律と周期表の特徴を理解する。 周期表上での元素の分類、陽性や陰性の傾向を学ぶ。	周期表における元素の分類			
	6	③化学結合			第二 回 考 査	・種々のイオン結晶の名称と組成式が書ける。
		(1)イオン結合とイオン結晶	イオン結合が静電気で形成されることを理解する。 イオン結晶の典型的な性質を理解する。	イオン結合とイオン結晶 イオン結晶の組成式		
(2)共有結合と分子		共有結合が価電子の共有で形成されることを理解する。 分子の電子式や構造式の表記法を学ぶ。 配位結合を理解する。	共有結合と分子 分子の電子式と構造式 配位結合と錯イオンの形成			
(3)分子の極性と分子間力		電気陰性度を理解し、共有結合中に極性が生じることを学ぶ。 分子の形と分子全体の極性の関係を理解する。	電気陰性度 分子の極性 極性分子と無極性分子			
(4)共有結晶		共有結合の結晶の構造と性質を理解する。	共有結晶			
7	(5)金属結合と金属結晶	金属結合が自由電子を仲立ちとして形成されることを理解する。	金属結合			

前期	後期	第二回 考 査	第三回 考 査	第四回 考 査
8	II 物質の変化			
9	①物質質量 (1)原子量・分子量・式量 (2)物質質量	原子量・分子量・式量の定義を学ぶ。 物質質量の概念を学ぶ。 物質質量と質量、体積、個数との関係を理解する。 溶液の濃度の定義を学ぶ。	原子量・分子量・式量の計算 物質質量の算出 物質質量の単位変換 モル濃度を用いた計算	・物質質量の計算ができる。 ・物質質量から質量・体積・個数への変換ができる。 ・モル濃度や質量パーセント濃度を計算で求めることができる。
10	(3)化学反応式と物質質量	化学変化を化学反応式やイオン反応式で表記する。 量的関係を理解する。	化学反応式およびイオン反応式の表記 量的関係	・化学変化を化学反応式で表現できる。 ・化学変化の量的関係を物質質量と関連づけて理解している。
11	②酸・塩基の反応 (1)酸と塩基	酸と塩基の定義を学ぶ。 酸と塩基の価数や強弱を理解する。	酸・塩基の定義 電離度と酸・塩基の強弱	・中和滴定の概要を理解し、目的の溶液の濃度を量的関係から算出できる。 ・酸と塩基の組み合わせから、滴定曲線が予想でき、適切な指示薬を選択できる。 ・塩の液性を塩の構成から判断できる。
12	(2)水溶液のpH (3)中和反応 (4)塩	水素イオン濃度とpHの関係を学ぶ。 中和反応の化学反応式を理解する。 中和滴定における滴定曲線と指示薬の関係を理解する。 塩の定義と分類法、水溶液の性質を理解する。	水素イオン濃度やpHの算出 中和反応の化学反応式 中和の量的関係 実験：中和滴定 塩の分類と水溶液の液性	
1	③酸化還元反応 (1)酸化と還元 (2)酸化剤と還元剤	酸素、水素、電子の授受による酸化還元反応の定義を学ぶ。 酸化数と酸化還元反応の関係を理解し、その変化をイオン反応式で表記する。 酸化還元反応の量的関係を理解する。	酸化還元反応の定義 酸化数の算出 酸化剤と還元剤 イオン反応式の表記 酸化還元反応の量的関係 実験：酸化剤と還元剤の反応	・酸素、水素、電子の授受から、酸化および還元された物質が判断できる。 ・酸化数を計算でき、さらにその変化から、物質の酸化還元反応を判断できる。 ・主な酸化剤、還元剤のイオン反応式が書ける。 ・量的関係を計算できる。 ・金属の反応性をイオン化傾向と関連づけできる。 ・代表的な電池の原理を理解している。
2	(3)金属の酸化還元反応 (4)酸化還元反応の利用	金属のイオン化傾向と酸化還元反応の関係を理解する。 種々の電池の構造と原理を学ぶ。	金属のイオン化傾向 実験：金属のイオン化傾向 電池 実験：ボルタ電池	
【課題・提出物等】		実験レポート、授業ノート、問題集ノート		
【年間を通しての評価方法】		定期考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度等		

(2) 評価の観点・内容・および評価方法

	評価の観点および到達目標	評価方法
関心・意欲・態度	各テーマについて興味・関心を持って取り組んでいるか。授業・実験・観察に意欲的に取り組み、より深く理解しようと努めているか。これらをノート、プリント、小テスト、考査および授業態度から評価する。	ノート・プリント・レポート、学習活動への参加の仕方や態度などから評価する。
思考・判断	化学的事象について疑問を持ち、問題点をきちんと把握できるか。またその問題点の解決方法を思いつくか。これらをノート、プリント、小テスト、考査から評価する。	考査、小テストなどから評価する。
技能・表現	実験・観察の技能を習得しているか。その結果をグラフや図などにしてわかりやすく表現できるか。これらをノート、プリント、レポート、考査を通して評価する。	実験への取り組み、レポートなどから評価する。
知識・理解	事象、現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、それを知識として身につけているか。これらを考査、プリント、ノートを通して評価する。	考査、小テスト、レポートなどから評価する。

(3) 評価の出し方について

考査ポイントの具体	定期考査の得点から評価する。
平常点ポイントの具体	提出物(実験レポート含む)、小テスト、授業態度をそれぞれポイントで評価する。

平成27(2015)年度 シラバス

教科・科目名	理科・化学基礎	学年・学級	5年・理系	単位数	2
--------	---------	-------	-------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

学習目標	物質の構造と反応を理解し、化学的な事象や現象に関する探究活動を実践することにより、化学的な見方、および考え方を養うとともに、科学の発展・科学技術の進歩を体系的に捉え、日常生活とのかかわりについて理解を深める。
履修上の注意	前期で化学基礎を履修し、後期から化学を履修する。
使用教科書・副教材等	教科書：新編化学基礎（数研出版） 問題集：セミナー化学基礎＋化学（第一学習社） 実験書：広島県版化学実験書（第一学習社） 資料集：フォトサイエンス化学図録（数研出版）

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考 査 範 囲	考査に出題する要点 (合格ライン)	
前期	4	1 物質の構成と化学結合 ①物質の構成	(1)混合物と純物質 物質を混合物と純物質に分類できる。 混合物の分離・精製の方法を理解する。	混合物と純物質の分類 実験：混合物の分離（蒸留、ろ過、クロマトグラフィー）	第一 回 考 査	・純物質と混合物および単体と化合物を分類できる。 ・混合物に含まれる純物質の性質から適切な分離法を選択できる。 ・同素体を説明でき、具体例を挙げることができる。 ・元素の元素記号が書ける。	
		(2)物質の成分	元素を元素記号で表せる。 純物質を単体と化合物に分類できる。 同素体を理解する。 成分元素の検出法を理解する。	元素の元素記号 単体と化合物の分類 単体と化合物の化学式 同素体の種類と特徴			
		②物質の構成粒子	(1)原子とその構造	原子の構造を理解し、同位体が存在することを理解する。 原子の電子配置とそれに基づく価電子の意味を理解する。			原子の構造と同位体 原子の電子配置
		(2)イオン	イオンの電子配置を理解し、多原子イオンの種類や化学式の表記を学ぶ。 原子のイオン化エネルギーと電子親和力を理解する。	イオンのイオン式 イオン化エネルギーと電子親和力			
	(3)周期表	元素の周期律と周期表の特徴を理解する。 周期表上での元素の分類、陽性や陰性の傾向を学ぶ。	周期表における元素の分類				
	5	③化学結合	(1)イオン結合とイオン結晶	イオン結合を理解する。 イオン結晶の特徴を理解する。			イオン結合とイオン結晶 イオン結晶の組成式
		(2)共有結合と分子	共有結合を理解する。 分子の電子式や構造式の表記法を学ぶ。 配位結合を理解する。	共有結合と分子 分子の電子式と構造式 配位結合と錯イオンの形成			
		(3)分子の極性と分子間力	電気陰性度を理解し、共有結合中に極性が生じることを学ぶ。 分子の形と分子全体の極性の関係を理解する。	電気陰性度 分子の極性 極性分子と無極性分子			
		(4)共有結晶	共有結合の結晶の構造と性質を理解する。	共有結晶			
	6	(5)金属結合と金属結晶	金属結合を理解する。 結晶格子に関連する計算法を体得する。 結晶質と非晶質を理解する。	金属結合 結晶格子の分類、密度計算			

前期	II 物質の変化		第二 回 考 査			
	①物質量	②酸・塩基の反応				
7	(1)原子量・分子量・式量	原子量・分子量・式量の定義を学ぶ。	原子量・分子量・式量の計算	・物質量の計算ができる。 ・物質量から質量・体積・個数への変換ができる。 ・モル濃度や質量パーセント濃度を計算で求めることができる。 ・化学変化を化学反応式で表現できる。 ・化学変化の量的関係を物質量と関連付けて説明できる。		
	(2)物質質量	物質量の概念を学ぶ。 物質量と質量、体積、個数との関係を理解する。 溶液の濃度の定義を学ぶ。	物質量の算出 物質量の単位変換 モル濃度をを用いた計算			
	(3)化学反応式と物質質量	化学変化を化学反応式やイオン反応式で表記する。 量的関係を理解する。	化学反応式およびイオン反応式の表記 量的関係			
	8	(1)酸と塩基	酸と塩基の定義を学ぶ。 酸と塩基の価数や強弱を理解する。		酸・塩基の定義 電離度と酸・塩基の強弱	・中和滴定の概要を理解し、目的の溶液の濃度を量的関係から算出できる。 ・酸と塩基の組み合わせから、滴定曲線が予想でき、適切な指示薬を選択できる。 ・塩の溶解性を塩の構成から判断できる。
		(2)水溶液のpH	水素イオン濃度とpHの関係を学ぶ。		水素イオン濃度とpHの算出	
		(3)中和反応	中和の定義を学び、量的関係を理解する。 中和滴定における滴定曲線と指示薬の関係を理解する。		中和反応の化学反応式 中和の量的関係 実験：中和滴定	
		(4)塩	塩の定義と分類法、水溶液の性質を理解する。		塩の分類と水溶液の液性	
	9	③酸化還元反応	(1)酸化と還元		酸化剤と還元剤のイオン反応式で表記する。 酸化還元反応の量的関係を理解する。	・酸素、水素、電子の授受による酸化・還元反応の定義を学ぶ。 ・酸化数と酸化還元反応の関係を理解する。 ・酸化剤と還元剤のイオン反応式の表記 ・酸化還元反応の量的関係を理解する。 ・金属のイオン化傾向と酸化還元反応の関係を理解する。
		(2)酸化剤と還元剤	酸化剤と還元剤のはたらきを理解し、その変化をイオン反応式で表記する。 酸化還元反応の量的関係を理解する。		酸化剤と還元剤 イオン反応式の表記 酸化還元反応の量的関係 実験：酸化剤と還元剤の反応	
(3)金属の酸化還元反応		金属のイオン化傾向と酸化還元反応の関係を理解する。	金属のイオン化傾向 実験：金属のイオン化傾向			
【課題・提出物等】		実験レポート、授業ノート、問題集ノート				
【年間を通しての評価方法】		定期考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度等				
【年間テスト計画】		定期考査の他、春課題テスト、5月教科テスト、夏課題テストを実施する。				

(2) 評価の観点・内容・および評価方法

	評価の観点および到達目標	評価方法
関心・意欲・態度	各テーマについて興味・関心を持って取り組んでいるか。授業・実験・観察に意欲的に取り組み、より深く理解しようとしているか。これらをノート、プリント、小テスト、考査および授業態度から評価する。	ノート・プリント・レポート、学習活動への参加の仕方や態度などから評価する。
思考・判断	化学的事象について疑問を持ち、問題点をきちんと把握できるか。またその問題点の解決方法を思いつくか。これらをノート、プリント、小テスト、考査から評価する。	考査、小テストなどから評価する。
技能・表現	実験・観察の技能を習得しているか。その結果をグラフや図などにしてわかりやすく表現できるか。これらをノート、プリント、レポート、考査を通して評価する。	実験への取り組み、レポートなどから評価する。
知識・理解	事象、現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、それを知識として身につけているか。これらを考査、プリント、ノートを通して評価する。	考査、小テスト、レポートなどから評価する。

(3) 評価の出し方について

考査ポイントの具体	課題テスト、教科テスト、定期考査の得点から評価する。
平常点ポイントの具体	提出物（実験レポート含む）、小テスト、授業態度をそれぞれポイントで評価する。

平成27(2015)年度 シラバス

教科・科目名	公民・現代社会	学年・学級	6年・理系	単位数	2
--------	---------	-------	-------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

現代の社会と人間についての理解を深めることで、現代社会の基本的な問題について主体的に捉え、公正に判断するとともに、自ら人間としてのあり方や生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

使用教科書・副教材等 『最新現代社会』（実教出版）  
『フォーラム現代社会2015』（東京法令出版）

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	考查に出題する要点 (合格ライン)
前期	4	第1部 わたしたちの 生きる社会	現代社会の諸問題について自己との関わりに着目して課題を設け、様々な観点から追究する学習を通して、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考えることの大切さを自覚させる。	1 地球環境問題 2 資源・エネルギー問題 3 生命科学と情報技術の課題	第1回 回 考 査	教科書・資料集・授業プリント(ノート)をもとに学習した基本的事項を理解する。
	5	第2部 現代の社会と 人間	現代社会について多角的に理解させるとともに、学習内容について自己との関わりに着目して考えさせる。	(1) 青年期の自己の形成 1 自分らしく生きる 2 人間として生きる 3 日本人としての自覚		
	6		(2) 現代の民主政治と日本国憲法 1 現代国家と民主政治 ○民主政治の基本原則 2 日本国憲法の基本原則 ○日本国憲法の制定 ○平和主義 ○基本的人権 3 日本の政治機構と政治参加 ○政治機構 国会・内閣 ○裁判所 ○地方自治 ○選挙・世論	第2回 回 考 査		
7						

後 期	9	第2部 現代の社会と 人間	現代社会について多角的に理解させるとともに、学習内容について自己との関わりに着目して考えさせる。	(3) 現代の経済社会と国民生活 1 現代の経済社会 ○経済社会の変容 ○市場のしくみ ○現代の企業 ○国民所得 ○金融 ○財政 ○金融・財政の課題 2 日本経済の特質と国民生活 ○日本経済のあゆみ ○中小企業 ○農業 ○消費者 ○労働 ○社会保障 ○公害	第3回 考 査	教科書・資料集・授業プリント(ノート)をもとに学習した基本的事項を理解する。
	10					
	11					
	12					
	1			(4) 国際社会と人類の課題 1 国際政治の動向 ○国際連合と国際協力 ○WW2後の国際政治 2 国際経済の動向と国際協力 ○貿易と国際収支 ○WW2後の国際経済	第4回 考 査	教科書・資料集・授業プリント(ノート)をもとに学習した基本的事項を理解する。
	2					
	3					
【課題・提出物等】		定期考査ごとに授業プリント(ノート)の提出を行う。また、授業中に課題を与え、その都度提出させる。				
【年間を通しての評価方法】		定期考査、授業プリント(ノート)等の提出物、授業態度、出欠状況等を総合的に判断する。				
【教科テスト実施予定等】		予定なし				

(2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	現代社会の基本的問題と、社会における人間に関わる事項に関心を高め、意欲的に課題を追究しようとする。	授業観察・提出物
思考・判断	現代社会の基本的問題と、社会における人間に関わる事項について課題を見いだし、多面的に思考・判断しようとする。	授業観察・定期考査
技能・表現	教科書や図説の現代社会の基本的問題と、社会における人間に関わる資料を十分に活用し、読み取ったことを的確に表現しようとする。	授業観察・定期考査
知識・理解	現代社会の基本的問題と、社会における人間に関わる事項を理解し、その知識を身につけている。	授業観察・定期考査

(3) 評定の出し方について

<p>考査ポイントの具体</p> <p>○定期考査の素点(100点)を70ポイントとする。</p> <p>平常点ポイントの具体</p> <p>○提出物・プリント等の有無や内容、提出時期を総合的に判断して評価する。</p> <p>○授業態度・居眠り・私語等の行為について減点する。</p> <p>○上記項目について評価し、30ポイントとする。</p>
--

平成27 (2015)年度 シラバス

教科・科目名	国語・国語総合 (現代文)	学年・学級	4年・全クラス	単位数	2
--------	------------------	-------	---------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

【学習目標】 評論、小説、韻文等、教材それぞれの特徴を知り、文章の構成や語感といったあらゆる事項から作品の内容や意図を理解し、自分なりの解釈や意見を持つ。	
【履修上の注意】 1 提出物は期限を厳守する。(期限を過ぎたものにはポイントを与えないが、必ず提出すること) 2 授業に積極的に取り組む。(取り組み方によっては出席と認めない) 3 理由のない遅刻・欠課は認めない。(一定数を超えた場合単位認定に関わる)	
【教科書】 国語総合 現代文編 (東京書籍)	【副教材】 豊富な演習によるアクト現代文基本編 評論要約マスターノート基礎編 進研WINSTEP現代文1 [改訂版] 漢字マイスター類出漢字熟語3000
使用教科書・副教材等	辞書または電子辞書

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	考查に出題 する要点 (合格ライン)
前 期	4	評論 【水の東西】	・取り上げられている内容を対比的にとらえる。	・文脈に即して語句の意味を理解する。	第一 回 考 査	【評論】 ・論の展開や主張の読みとり
	5	小説 【羅生門】	・主人公の心理の変化を読み取る。	・背景や情景描写等が小説に与える効果を知る。		【小説】 ・心情変化や描写の読みとり
	6	評論 【希望としてのクレオール】	・構成や展開に注意して叙述の内容をたどる。	・結論に至るまでの構成を理解する。		【言語事項】 ・漢字の読み書き等
	7	模試対策	進研模試受験対策	・模試の受け方を知り、過去問を解く。	第二 回 考 査	【小説】 ・心情変化や描写の読みとり
		小説 【富岳百景】	・人物の心情や人間像を叙述に即してとらえる。	・富士の描写の変化から、作者の考え方を読み取る。		【詩】 ・言葉の意味の読みとり
		9	詩歌 【小景異情】ほか	・さまざまな表現から作者のメッセージを読み取る。		・詩の表現方法に習熟し、言葉の意味を読みとる。

後 期	10	評論 【「顔」という現象】	・構成や展開に注意して叙述の内容をたどる。	・結論に至るまでの構成を理解する。	第三 回 考 査	【評論】 ・論の展開や主張の読みとり
	11	模試対策	進研模試受験対策	・模試の受け方を知り、過去問を解く。		【小説】 ・心情変化や描写の読みとり
	小説 【城の崎にて】	・小説の構成を考え、場面を正確に読みとる。	・主人公の心情変化および、それをもたらした場面状況を正確に読みとる。	【言語事項】 ・漢字の読み書き等		
	12	評論 【広告の形而上学】	・現代の課題を描いた文章を読み、考えを深める。	・段落ごとの役割を理解する。	第四 回 考 査	【評論】 ・論の展開や主張の読みとり
	1	模試対策	進研模試受験対策	・模試の受け方に習熟し、過去問を解く。		【言語事項】 ・漢字の読み書き等
	2	評論 【映像文化の変貌】	・論の展開を理解し、内容を的確にとらえる。	・事例と主張を整理して、筆者の主張を読み取る。		
3	表現	・表現の工夫について学ぶ。	・手紙文や韻文を作成する。			
【課題・提出物等】		ノート・問題集・宿題・週末課題・長期休暇課題等				
【年間を通しての評価方法】		定期考査・教科テスト・課題テスト・小テスト・提出物・授業態度等				

(2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	授業に関心を持って積極的に取り組み、内容の理解・知識の習得に努める。	授業態度・提出物
思考・判断	作品の構成や行間を読み取り、作品の主旨を把握することができる。	考査・発言
技能・表現	様々な表現方法を使った作品を理解することができる。また、それによって生まれた自分の考えを・感想を表現することができる。	考査・発言・作文等
知識・理解	漢字の書き取りや文章表現の読み取り、文学史、慣用語の意味等、作品を読み取る上で必要な知識を身につける。	考査・小テスト

(3) 評定の出し方について

考査ポイント (70ポイント×4回) 定期考査・教科テスト・課題テストで判断します。 平常点ポイント (30ポイント×4回) ノート・問題集・宿題 (週末・週間課題)・長期休暇課題・小テスト・授業態度で判断します。 ☆定期考査は「現代文」と「古典」に分かれますが、評価は「国語総合」として出します。
---

平成27(2015)年度 シラバス

教科・科目名	国語・国語総合 (古典)	学年・学級	4年・全クラス	単位数	3
--------	-----------------	-------	---------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

●音読を通して古典の美しさを味わうとともに、語彙や文法・句法といった基本的・基礎的事項を習得し、それを土台に古典文学を解釈・鑑賞する力を身につける。  
 1 提出物は期限を厳守すること。(期限を過ぎたものにはポイントを与えないが、必ず提出すること)  
 2 授業に積極的に取り組みること。(取り組み方によっては出席と認めない)  
 3 理由のない遅刻・欠課は認めない。(一定数を超えた場合、単位認定に関わる)

使用教科書 副教材等	【教科書】国語総合 古典編(東京書籍)
	【副教材】読んで見て覚える重要古文単語315 三訂版 八訂版 読解をたいてつにする体系古典文法 基本の古典(古文・漢文) 徒然草による用言ノート 枕草子による助動詞ノート 漢文やまのヤマ パワーアップ版 進研WINSTEP古典1[改訂版]  【辞書】全訳古語辞典 第四版小型版(旺文社)または電子辞書

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	調査範囲	調査に出題する 要点 (合格ライン)
	4	【今昔物語集】 「検非違使 忠明」	歴史的仮名遣いや古語辞典の引き方など、古文を学習するための基礎知識を習得する。	音読を繰り返し、仮名遣いや古文のリズムに慣れる。五十音図を習得する。	第1回調査	重要古語 ・問題集 ・現代語訳 ・文法問題 ・内容問題
		【宇治拾遺物語】 「絵伝師 良秀」		古語辞典の引き方を習得する。動詞の活用を学ぶ。		
	5	【十訓抄】 「大江山の歌」	脱語の面白さを読み味わう。用言についての理解を深める。	用言を習得する。助動詞「たり・けり・べし」と助詞「ば」について学び、係り結びの法則を習得する。	第2回調査	重要古語 ・問題集 ・現代語訳 ・文法問題 ・内容問題
	6	朗読の基本 格言	朗読の基本について理解する。	返り点・書き下し文と置き字を習得する。返読文字・再読文字を理解する。		
	6	故事成語 【助長】 【推敵】	朗読や基本的な句法を確認する。故事成語の成り立ちの面白さを読み取る。	置き字を確認し、返読文字・再読文字を習得する。	第2回調査	重要古語 ・問題集 ・現代語訳 ・文法問題 ・内容問題
	7	模擬試験対策	模擬試験での実践力を高める。	模擬試験の過去問題を解く。		
	9	【徒然草】 「執業に、なにがしかの押領使」	随筆文学の面白さを知る。助動詞を理解する。	用言の復習をする。助動詞について学ぶ。	第2回調査	重要古語 ・問題集 ・現代語訳 ・文法問題 ・内容問題
	9	【徒然草】 「九月二十日のころ」				

後 期	10	【竹取物語】 「天の羽衣」	作り物語の読み方を学ぶ。敬語を理解する。	敬語について学ぶ。	第3回調査	重要古語 ・問題集 ・現代語訳 ・文法問題 ・内容問題	
		模擬試験対策	模擬試験での実践力を高める。	模擬試験の過去問題を解く。			
	11	【伊勢物語】 「芥川」	歌物語の叙情性を味わうと共に、和歌を中心に据えて物語を理解する。和歌の修辭について、掛詞や序詞など基礎的な事項を習得する。本文に出てくる助動詞を習得する。助動詞の理解を深める。助詞を理解する。	本文と和歌の関係に留意し、物語を理解する。和歌の修辭について、掛詞や序詞など基礎的な事項を習得する。本文に出てくる助動詞を習得する。助詞について学ぶ。	第4回調査	重要古語 ・問題集 ・現代語訳 ・文法問題 ・内容問題	
		【伊勢物語】 「筒井筒」					
		12	寓話 雑説	簡潔な表現や論理展開から筆者の主張を読み取る。用字法や句法を理解する。	本文に出てくる用字法・句法を習得し、それに基づいて口語訳をする。重要な用字法や句法を学ぶ。	第4回調査	重要古語 ・問題集 ・現代語訳 ・文法問題 ・内容問題
		模擬試験対策	模擬試験での実践力を高める。	模擬試験の過去問題を解く。			
	1	【十八史略】 「鶏口牛後」	史話の読み取りを理解する。用字法や句法の理解を深める。	本文に出てくる用字法・句法を習得し、それに基づいて口語訳をする。重要な用字法や句法を理解する。	第4回調査	重要古語 ・問題集 ・現代語訳 ・文法問題 ・内容問題	
	2	【土佐日記】 「馬のはなむけ」	日記文学の読み方を学ぶ。助動詞の理解を深める。助詞を理解する。語の識別について学ぶ。	本文に出てくる助動詞を習得する。助詞について学ぶ。語の識別について学ぶ。			
	3	【土佐日記】 「猪京」					
		【課題・提出物等】	ノート(プリント)・問題集・宿題・週末課題・長期休暇課題等				
		【年間を通しての評価方法】	定期調査・教科テスト・課題テスト・小テスト・提出物・授業態度等を総合的に判断して評価する。				
		【教科テスト実施予定等】	各長期休暇明けには課題テストを実施する予定。教科テストは授業進度による。				

(2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	授業に関心を持って積極的に取り組み、内容の理解・知識の習得に努める。	授業態度・提出物
思考・判断	作品の構成や登場人物の心情等を読み取り、作品の主旨を把握することができる。	調査・発言
技能・表現	様々な表現方法を使った作品を理解することができる。また、それによって生まれた自分の考えを、感想を表現することができる。	調査・発言・提出物等
知識・理解	古典常識・文語のきまりや朗読のきまりなど、作品を読み取る上で必要な知識を身につける。	調査・小テスト

(3) 評定の出し方について

調査ポイント(70ポイント×4回)
定期調査・教科テスト・課題テストで判断します。
平常点ポイント(30ポイント×4回)
ノート・問題集・宿題(週末・週間課題)・長期休暇課題・小テスト・授業態度で判断します。
☆定期調査は「現代文」と「古典」に分かれますが、評価は「国語総合」として出します。

平成27(2015)年度 シラバス

教科・科目名	公民・倫理	学科・学年・学級	6年・文系	単位数	2
--------	-------	----------	-------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

使用教科書・副教材等	「高等学校倫理」(第一学習社) 「テオリア最新倫理資料集初訂版」(第一学習社)
------------	---

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動 (学習内容) (注)太字は人名	考查範囲	評価の観点 のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
前期	4	1 青年期の課題と自己生成			第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回	○	○	○	○
		(1) 青年期の課題	青年期はどのような時期か、自分たちの「今」に結びつけて理解を深める。	エリクソンの提唱したアイデンティティの概念					
		(2) 自己の探求	心の動きや他者との関係に焦点をあてて、青年期への理解を深める。	自我のめざめ 防衛機制					
		(3) 現代の青年期	現代青年の生きがいについて考える。	「若者文化」					
	5	2 人間としての自覚							
		(1) よく生きることを求め	人間の特質について、先人のことばをヒントに考える。	ホッブズ、ロック、ルソー、ベンサム、ミル、フーコー					
		(2) ギリシアの思想	古代ギリシアに登場した哲学者たち(ソクラテス、プラトン、アリストテレスら)の思想を通して、生きることの価値とは何かを考える。	自然哲学者 ソフィスト、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、エピクロス、ゼノン					
		(3) キリスト教	イエスの活動とその思想を学び、世界宗教となったキリスト教の特徴を考える。	ユダヤ教 イエス					
	6	(4) イスラーム	イスラーム教における宗教的実践の特徴を学び、イスラームの世界観について考える。	バカ、アブ・スライマ、トマス・アクィナス ムハンマド					
	7	(5) 仏教	ブッダの活動とその思想の根本について学び、日本を含む東洋の思想に与えた影響と自身の生き方について考える。	ヒンドゥー教 ウパニシャッド哲学 ゴータマ・シッダッタ 大乗仏教と上座部仏教					
	9	(6) 中国の思想	孔子・孟子・荀子・老子・荘子・朱子・王陽明ら、中国の著名思想家たちそれぞれの思想的特徴を学び、人間の性質やあるべき生き方について、自分の人生観に照らして考える。	孔子、孟子、荀子 墨子 韓非子 朱子、王陽明 老子、荘子					

後期	10	3 現代に生きる人間の倫理	ルネサンスと宗教改革 モリス カント ヘーゲル	第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回	○	○	○	○
		(1) 人間の尊厳と自由						
		(2) 近代の科学革命と自然	科学革命 ベーコンと経験論 デカルトと合理論					
	11	(3) 民主社会における人間のあり方	社会契約説 ホッブズ、ロック、ルソー 社会主義思想 マルクス、エンゲルス プラグマティズム ジューズ、デューイ					
	12	(4) 幸福の追求と主体性の確立	功利主義 ベンサム、ミル 実存主義 キルケゴール、ニーチェ、ヤスパーズ、ハイデガー、サルトル					
	1	(5) 生命への畏敬と社会奉仕	シュヴァイツァー ガンディー マザー・テレサ					
		【課題・提出物等】	授業中に使用するプリント・授業中のノート					
		【年間を通しての評価方法】	次のことがらを総合的に判断する。 定期考査の成績、課題の提出状況、授業への出席状況、授業への意欲関心					

(2) 評価の観点・内容・および教科方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成に努める実践的意欲とこれにかかわる諸課題を探究する態度をもち、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	授業態度 提出物の状況
思考・判断	自己形成と人間としての在り方生き方について広く課題を見出し、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。	定期考査 授業中の問い
技能・表現	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を収集し、これらを自己形成に資するよう活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	定期考査 授業中の問い
知識・理解	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。	定期考査 授業中の問い

(3) 評定の出し方について

<p>考査ポイントの具体</p> <p>○ 定期考査(100点)を70ポイントとする。</p> <p>平常点ポイントの具体</p> <p>○ 提出物、課題、授業態度をそれぞれポイントにより評価し、30ポイントとする。</p>
--

平成27(2015)年度 シラバス

教科・科目名	地歴・世界史A	学年・学級	4年・全クラス	単位数	2
--------	---------	-------	---------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

世界の歴史（特に近現代史）を学ぶことによって、人類の課題を多角的に考察する歴史的思考力を形成する。	
使用教科書・副教材等	『改訂版世界の歴史 世界史A』（山川出版社）・『新詳世界史図説』（浜島書店）

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考査 範囲	考査に出題する要 点(合格ライン)
	4	第1章 諸地域世界と 交流圏	諸地域の特質を知る。 諸地域相互の交流が世界 の一体化に繋がることに 気づく。	序 人類のはじまり	第1回 考査	教科書・図説・ 授業プリント（ ノート）をもと に授業中に指摘 された基本的事 項を理解する。
	5			1 東アジア世界		
	6			2 南アジア世界		
	7			3 東南アジア世界		
	8			4 イスラーム世界		
	9			5 ヨーロッパ世界		
	6	第2章 一体化に向か う世界	世界商業の進展を軸に世 界の一体化の過程を理解 する。	6 南北アメリカ	第2回 考査	教科書・図説・ 授業プリント（ ノート）をもと に授業中に指摘 された基本的事 項を理解する。
	7			7 ユーラシアの交流圏		
	8			1 繁栄するアジア		
	9	世界の一体化の進展と資 本主義と国民形成の過程 を理解する。	世界の一体化の進展と資 本主義と国民形成の過程 を理解する。	2 大航海時代を迎える ヨーロッパ	第2回 考査	教科書・図説・ 授業プリント（ ノート）をもと に授業中に指摘 された基本的事 項を理解する。
	10			3 ヨーロッパと アメリカの諸革命		
	11			4 自由主義・ナシヨナ リズムの進展		
	12	ヨーロッパの進出による アジアの従属化や抵抗を 通して19世紀の世界の変 貌を理解する。	ヨーロッパの進出による アジアの従属化や抵抗を 通して19世紀の世界の変 貌を理解する。	5 アジア諸国の動揺	第2回 考査	教科書・図説・ 授業プリント（ ノート）をもと に授業中に指摘 された基本的事 項を理解する。
	1			6 東アジアの大変動		

後 期	10	第3章 現代世界と 日本	世界大戦の総力戦として の性格に気づく。 戦争が及ぼした影響を理 解して、平和の意義につ いて考察する。	1 現代世界の芽ばえ	第3回 考査	教科書・図説・ 授業プリント（ ノート）をもと に授業中に指摘 された基本的事 項を理解する。
	11			2 第一次世界大戦がも たらしたもの		
	12			3 "民族自決"を求め て		
	1	第2次世界大戦後の国際 情勢を知る。	4 経済危機から第二次 世界大戦へ			
			5 冷たい戦争の時代			
			6 現在に続く世界の動 き			
			7 未来への第1章			
【課題・提出物等】		定期考査ごとに授業プリント（ノート）の提出を行う。				
【年間を通しての評価方法】		定期考査、授業プリント（ノート）等の提出物、授業態度、出欠状況等を総合的に判断する。				
【教科テスト実施予定等】		予定なし				

(2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	世界の歴史的事象に関心を持ち、意欲的に追究しようとする。	授業観察・提出物
思考・判断	世界の歴史的事象から課題をみつけ、多面的に思考・判断しようとする。	授業観察・定期考査
技能・表現	教科書や図説の資料を十分に活用し、読み取ったことを的確に表現しようとする。	授業観察・定期考査
知識・理解	世界の歴史的事象についての基本的事項を知り、理解しようとする。	授業観察・定期考査

(3) 評定の出し方について

考査ポイントの具体
○定期考査の素点(100点)を70ポイントとする。
平常点ポイントの具体
○提出物・プリント等の有無や内容、提出時期を総合的に判断して評価する。
○授業態度・居眠り・私語等の行為について減点する。
○上記項目について評価し、30ポイントとする。

平成27(2015)年度 シラバス

教科・科目名	公民・政治・経済	学年・学級	6年・文系	単位数	2
--------	----------	-------	-------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代社会における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させる。また、それらに関する諸問題や課題に対して主体的に考察したり、公正な判断力を養うことで、良識ある公民として必要な能力と態度を育てること。

使用教科書・副教材等  
 【政治・経済】(東京書籍)・  
 【最新図説 政経】(浜島書店)

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查 範囲	考查に出題 する要点 (合格ライン)
前 期	4	第1章 現代の政治	現代の日本の政治及び国際政治の動向について関心を高め、基本的な人権と議会制民主主義を尊重し擁護することの意義を理解させるとともに、民主政治の本質について探究させ、政治についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。	1 民主政治の基本原則 ○民主政治の成立 ○法の支配と人権の確立 ○現代の民主政治 ○世界の主な政治体制	第1回 考查	教科書・資料集・授業プリント(ノート)をもとに学習した基本的事項を理解する。
	5			2 日本国憲法の基本原則 ○日本国憲法の制定と基本原則 ○基本的人権の保障 ○平和主義		
	6			3 日本の政治機構 ○国会と立法 ○内閣と行政 ○裁判所と司法 ○地方自治		
前 期	7 9			4 現代政治の特質と課題 ○選挙と政治意識 ○戦後政治と政党 ○世論と政治参加	第2回 考查	教科書・資料集・授業プリント(ノート)をもとに学習した基本的事項を理解する。
				5 現代の国際政治 ○国際関係と国際法 ○国際社会の組織化 ○国際政治の動向と課題 ○地球環境と資源・エネルギー		

後 期	10	第2章 現代の経済	現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、日本経済の国際化をはじめとする経済生活の変化、現代経済の機能について理解させるとともに、その特質を探究させ、経済についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。	1 現代の資本主義経済 ○資本主義の成立と発展 2 現代経済のしくみ ○経済主体 ○市場 ○国民所得と経済成長 ○金融・財政のしくみと機能 3 日本経済の発展と産業構造 ○経済再建から高度成長 ○中小企業 ○農業・食料 ○公害 ○資源 ○消費者 4 福祉社会と課題 ○労働 ○社会保障 5 国民経済と国際経済 ○貿易と国際収支	第3回 考查	教科書・資料集・授業プリント(ノート)をもとに学習した基本的事項を理解する。
	11			○経済対立と国際協調 ○途上国の経済 ○地域主義とグローバリズム		
	12			1 日本社会の諸課題 ○少子高齢化と社会保障 2 国際社会の諸課題 ○資源・環境 貧困・援助・紛争、地球市民		
	1 2 3	第3章 現代社会の 諸課題	政治や経済に関する基本的な理解を踏まえ、現代の政治や経済の諸課題を追究する学習を行い、望ましい解決のあり方について考察させる。		第4回 考查	教科書・資料集・授業プリント(ノート)をもとに学習した基本的事項を理解する。
【課題・提出物等】		定期考査ごとに授業プリント(ノート)の点検を行う。また、授業中に課題を与え、その都度提出させる。				
【年間を通しての評価方法】		定期考査、授業プリント(ノート)等の提出物、授業態度、出欠状況等を総合的に判断する。				
【教科テスト実施予定等】		予定なし				

(2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	政治・経済の基本的問題と、社会における人間に関わる事項に関心を高め、意欲的に課題を追究しようとする。	授業観察・提出物
思考・判断	政治・経済の基本的問題と、社会における人間に関わる事項について課題を見だし、多面的に思考・判断しようとする。	授業観察・定期考査
技能・表現	教科書や図説の政治・経済の基本的問題と、社会における人間に関わる資料を十分に活用し、読み取ったことを的確に表現しようとする。	授業観察・定期考査
知識・理解	政治・経済の基本的問題と、社会における人間に関わる事項を理解し、その知識を身につけている。	授業観察・定期考査

(3) 評定の出し方について

<p>考査ポイントの具体</p> <p>○定期考査の素点(100点)を70ポイントとする。</p> <p>平常点ポイントの具体</p> <p>○提出物・プリント等の有無や内容、提出時期を総合的に判断して評価する。</p> <p>○授業態度・居眠り・私語等の行為について減点する。</p> <p>○上記項目について評価し、30ポイントとする。</p>
--



平成27(2015)年度 シラバス

教科・科目名	理科・物理基礎	学年・学級	4年・全クラス	単位数	2
--------	---------	-------	---------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

年間の学習目標	物理に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育てる。また、実験などを通じて科学的探究の方法を学び、自然現象とその応用に向けての興味・関心を高める。
履修上の注意	授業については4年生全員に対して行う。内容としては、力、運動等に関する事象・法則などについて学習する。授業に集中し、整理されたノートを作成すること。新聞、雑誌記事やテレビなどで報道される様々な科学的な事象に興味を持っておくこと。
使用教科書・副教材等	教科書 「物理基礎」数研出版 副教材 「セミナー物理基礎+物理」第一学習社

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	考查のポイント
前期	4	運動の表し方	・物体の運動を数式やグラフを用いて表す方法を身につける。	・速度と加速度 ・等速直線運動	第1回 回 考 査	・変位x、速度v、加速度aなどの物理量を正しく扱える。
	5			・等加速度直線運動 ・落体の運動 ・放物運動		・グラフによって表現できる。
	6				第2回 回 考 査	・力の合成、分解ができる。
	7	いろいろな力とそのつり合い	・様々な力を理解する。 ・力の合成と分解の方法を知る。 ・具体的な素材について力のつり合いの式が立てられるようになる。	・張力、弾性力、浮力、摩擦力など。  ・力の作図とつり合いの式。		・運動の法則をいろいろな物理系に適用できる。
9	運動の法則	・運動の3法則を理解する。 ・運動方程式の立て方を習得する。	・慣性の法則 ・運動の法則 ・作用反作用の法則 ・いろいろな物体の運動		・運動方程式を解いて、加速度、力などを求めることができる。	

10 11 12	仕事と力学的エネルギー	・力のする仕事と表し方を理解する。 ・力学的エネルギーと仕事のつながりを理解する。	・力のする仕事。 ・運動エネルギー、重力による位置エネルギー、弾性力による位置エネルギー。	第3回 考 査	・運動エネルギー、位置エネルギーと、仕事の関係を正しく理解する。
	仕事と力学的エネルギー	・力学的エネルギー保存則の使い方を習得する。	・エネルギーの原理。 ・力学的エネルギー保存の法則。		・エネルギー保存の場合の方程式が利用できる。
	熱とエネルギー	・比熱を理解し、熱量保存の式を立てられるようにする。	・比熱、熱容量、熱平衡 ・熱量保存		・熱量保存則を使うことができる。
1 2 3	波	・波の性質を理解する ・波の干渉現象を理解する ・音の諸現象を理解する	・波の周期性 ・波動を表す数式 ・重ね合わせの原理 ・音の振動数と高さ	第4回 考 査	・波の基本的性質を理解できる。
	電気と磁気	・電流と電気抵抗 ・電流と磁界 ・交流と電磁場	・抵抗の形状と抵抗値 ・電流のつくる磁界 ・交流の利用		・電気現象についているいろいろな面から理解する。
【課題・提出物等】		授業ノート、演習ノート、課題プリントの提出			
【年間を通しての評価方法】		定期考査、提出物、授業態度、出席状況等を総合して評価する。			

(2) 評価の観点・内容・および教科方法

評価の観点および到達目標		評価方法
思考・判断	物理的事象について疑問を持ち、問題点をきちんと把握できるか。またその問題点の解決方法を思いつくか。これらをノート、プリント、定期テストから評価する。	ノート、プリント、授業態度、テスト
技能・表現	実験の技能を習得しているか。その結果をグラフや図などにしてわかりやすく表現できるか。これらをノート、プリント、レポート、定期テストを通して評価する。	ノート、プリント、授業態度、テスト
知識・理解	事物、現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、それを知識として身につけているか。これらを定期テスト、プリント、ノートを通して評価する。	ノート、プリント、授業態度、テスト

(3) 評定の出し方について

<p>考查ポイントの具体</p> <p>○ 定期考査(100点)を7割とする。</p> <p>平常点ポイントの具体</p> <p>○ 提出物、課題、授業態度をそれぞれポイントにより評価し、3割とする。</p>
--

3 担当者からのメッセージ

<p>・授業プリントを使用するので、プリントへ記入してノートを作成する。</p> <p>・考查問題は事前に配布するプリントを元に作成する。</p> <p>・課題のプリントは演習ノートに切り貼りして作成する。自分で添削すること。</p> <p>・副教材の問題集は自学自習用である。単元毎に自主学習しておくこと。</p>
--

平成27(2015)年度 シラバス

教科・科目名	数学Ⅰ・数学Ⅱ	学科・学年・学級	普通科・4年・全クラス	単位数	3+2+1
--------	---------	----------	-------------	-----	-------

1 年間の学習目標・履修上の注意等

2次関数、図形と計量、データの分析、場合の数と確率、図形の性質、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

使用教科書 副教材等	使用教科書：数学Ⅰ・数学Ⅱ（数研出版） 傍用問題集：サクシード数学Ⅰ+A、サクシード数学Ⅱ+B（数研出版） 副教材：チャート式 基礎からの数学Ⅰ+A、基礎からの数学Ⅱ+B（数研出版） 練習ドリル 数学Ⅰ、練習ドリル 数学Ⅱ（数研出版）
---------------	--

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查 範囲	考查に出題する 要点 (合格ライン)	
前期	4	数学Ⅰ第2章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	・2次関数の最大値や最小値を求めることができる。 ・与えられた放物線のグラフや条件から、その2次関数を定められるようにする。	・最大値や最小値を求めることができる。また、具体的な問題の解決に活用できる。 ・与えられた条件から、その2次関数を定める。	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回 第16回 第17回 第18回 第19回 第20回 第21回 第22回 第23回 第24回 第25回 第26回 第27回 第28回 第29回 第30回 第31回 第32回 第33回 第34回 第35回 第36回 第37回 第38回 第39回 第40回 第41回 第42回 第43回 第44回 第45回 第46回 第47回 第48回 第49回 第50回 第51回 第52回 第53回 第54回 第55回 第56回 第57回 第58回 第59回 第60回 第61回 第62回 第63回 第64回 第65回 第66回 第67回 第68回 第69回 第70回 第71回 第72回 第73回 第74回 第75回 第76回 第77回 第78回 第79回 第80回 第81回 第82回 第83回 第84回 第85回 第86回 第87回 第88回 第89回 第90回 第91回 第92回 第93回 第94回 第95回 第96回 第97回 第98回 第99回 第100回	①最大値と最小値 ②2次関数の決定 ③2次関数のグラフの考察を通して、問題を整理することができる。 ④2次不等式	
		第2節 2次方程式と2次不等式	・2次関数のグラフやx軸との位置関係を利用して、2次方程式や2次不等式の解について理解を深め、2次不等式の解法に習熟する。	・2次方程式の整数解の個数や判別式の符号との関係を理解する。 ・2次不等式の解の意味を理解し、その解を求めることができる。		①2次方程式の整数解の個数 ②判別式の符号との関係 ③判別式を用いた不等式の解法	
	5	数学Ⅰ第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	・集合の包含関係や要素の個数など集合についての基本的な事項を理解する。 ・和の法則と積の法則の意味を理解する。 ・順列、組合せの意味を理解し、総数を求める。 ・階乗、円順列や重複順列について理解する。	・集合の要素の個数を求めることができる。 ・ドモルガンの法則を利用して、総数を処理。 ・補集合や部分集合について理解する。 ・場合の数、順列について理解する。 ・数え上げる方法を論理的に考える。 ・順列と組合せについて理解する。		①集合の要素の個数 ②場合の数を数えることができる。 ③順列・組合せの総数を求めることができる。	①集合の要素の個数 ②場合の数を数えることができる。 ③順列・組合せの総数を求めることができる。
	6	第2節 確率	・確率の基本的な法則をまとめ、事象などについて理解する。 ・独立な試行について、その意味を理解する。反復試行の確率が求められるようにする。 ・条件付き確率について、その意味を理解する。また、条件付き確率の公式から、確率の乗法定理を導き出す。	・確率の基本的な法則を理解する。 ・事象の確率を処理する。 ・独立な試行の確率、反復試行の確率、条件付き確率について理解する。		①確率を求められる。 ②独立な試行の確率、反復試行の確率、条件付き確率を求められる。	①確率を求められる。 ②独立な試行の確率、反復試行の確率、条件付き確率を求められる。
	7	数学Ⅰ第2章 図形の性質 第1節 平面図形	・辺の長さや角の大きさ、角の二等分線と辺の比、三角形の五心を読み、図形の性質を図形の考察に活用する。 ・内接図形に関する性質、円の半径と弦の作る角の性質、方べきの定理や二つの円の位置関係などを扱い、これらの図形の性質を図形の考察に活用する。 ・基本的な図形の性質などを用いた図形の作図に活用できるようにする。	・三角形の五心などの性質 ・三角形の辺の長さや角の大きさについて処理する。 ・メネラウスの定理やチェバの定理 ・内角、外角の二等分線と辺の比の関係を理解する。 ・円の半径と弦の作る角の性質 ・円の内接する四角形の性質 ・円の接線と接点を結ぶ弦と方べきの性質 ・円周角の定理や方べきの定理などの性質 ・二つの円の位置関係 ・基本的な作図方法を理解する。 ・作図したすべての点が条件を満たしていることを確認する		①円周角の定理、接弦定理、方べきの定理などを理解できる。 ②図形の性質を問題の解決に利用できる。 ③作図の方法を理解することができる。	①円周角の定理、接弦定理、方べきの定理などを理解できる。 ②図形の性質を問題の解決に利用できる。 ③作図の方法を理解することができる。
	8	第2節 空間図形	・空間における直線や平面の位置関係やなす角についての理解を深める。 ・多面体などに関する基本的な性質について理解し、空間における直線や平面の位置関係やなす角	・空間における点、直線、平面の関係 ・オイラーの多面体定理より、多面体における頂点、辺、面の関係 ・空間における直線や平面の位置関係やなす角		①空間における直線や平面の位置関係を理解することができる。 ②空間における直線や平面の位置関係を理解することができる。	①空間における直線や平面の位置関係を理解することができる。 ②空間における直線や平面の位置関係を理解することができる。
	9	数学Ⅰ第3章 図形と計量 第1節 三角比	・三角比（正弦・余弦・正接）を導入し、鈍角までの三角比の相互関係について理解を深める。直角三角形に着目させ、辺の長さに関する問題の解決に活用できるようにする。	・三角比としての正弦、余弦、正接の意味を理解し、活用する。 ・鈍角によって拡張した三角比の定義を理解する。 ・三角比の相互関係		①三角比の値を求め、相互関係を理解できる。 ②正弦定理、余弦定理、面積の公式を用いることができる。	①三角比の値を求め、相互関係を理解できる。 ②正弦定理、余弦定理、面積の公式を用いることができる。
		第2節 三角形への応用	・正弦定理、余弦定理や三角形の面積の公式について学習し、平面や空間における図形の辺の長さや角の大きさおよび面積などを求められるようにする。	・正弦定理と余弦定理を理解し、既知の辺や角から残りの辺や角を求める。 ・三角形の面積を求めることができる。また、円に内接する四角形の面積について考察する。	①正弦定理、余弦定理、面積の公式を用いることができる。	①正弦定理、余弦定理、面積の公式を用いることができる。	

10	数学Ⅰ第4章 データの分析	・統計用語の意味やその扱いについて理解させる。 ・四分位偏差、分散、標準偏差などに着目し、データの傾向を的確に把握する。 ・散布図及び相関係数の意味を理解させ、それらを利用してデータの相関を的確にとらえ説明できるようにする。	・度数分布、ヒストグラム、相対度数を扱う。 ・平均値、中央値、最頻値について理解する。 ・四分位偏差、分散、標準偏差の定義や意味 ・散布図や相関係数を算出して、2つのデータの相関をとらえる。	①平均値や中央値、最頻値、四分位偏差、分散、標準偏差の定義や意味 ②散布図や相関係数を算出して、データの相関をとらえる。	
10	数学Ⅰ第3章 数値の性質 第1節 約数と倍数	・約数の定義と倍数の定義、倍数の判定法、素数の定義、素因数分解を用いて最大公約数と最小公倍数の求め方。 ・余りによる整数の分類と整数の性質の証明 ・互除法の原理を理解し、それを利用して最大公約数を求める。 ・1次不定方程式を解く。 ・n進法について理解し、加減乗除ができる。	・約数や倍数の定義を数値の範囲で理解する。 ・素数の定義と素因数分解 ・互いに素な整数の性質を利用して、命題を証明する。 ・整数を余りで、分類して命題を証明する。 ・互除法を利用して、最大公約数を求める。 ・1次不定方程式を解く。 ・n進法の加減乗除ができる。	①素因数分解の利用 ②整数の性質の証明 ③合同式（余りの計算） ④互除法の利用 ⑤1次不定方程式 ⑥n進法の計算	
11	数学Ⅱ第1章 式と証明 第1節 式と計算	・多項式の割り算、分式式の計算 ・恒等式の位置関係 ・等式・不等式の証明	・多項式の割り算、等式変形、分式式の計算 ・恒等式の性質を理解し、等式の証明を論理的に行うことができる。 ・不等式の証明を論理的に行うことができる。	①多項式の除法、分式式の計算 ②恒等式 ③等式・不等式の証明	
12	数学Ⅱ第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と方程式	・2次方程式の解の範囲を複素数の範囲まで拡張する。 ・判別式や解と方程式の係数の関係を理解して、式の見方・考え方を深める。 ・1次式で割る整式の剰余が除法によらずとも求められる。 ・因数定理による高次方程式の解法を知る。	・複素数を導入する。 ・2次方程式の解を複素数の範囲に拡張する。 ・解と係数の関係に着目する。 ・剰余の定理を用いて剰余を求める。 ・平方剰余の条件を導く。 ・高次方程式の解法や高次方程式の解法を解く。	①複素数の計算 ②解と係数の関係 ③剰余の定理 ④因数定理	
1	数学Ⅱ第3章 図形と方程式 第1節 点と直線	・2点間の距離を求めることができる。 ・内分点・外分点と直線 ・直線の方程式の関係を理解する。 ・直線の位置関係を調べる。 ・円の方程式 ・円と直線の位置関係が中心と直線の距離によって判別されることを理解する。 ・軌跡の方程式を導くことができる。 ・不等式を満たす直線や円の領域を求めることができる。 ・領域と最大値・最小値の求め方を理解する。	・三方量の定理を用いて2点間の距離の公式を導く。 ・内分点、外分点の関係を求める公式を導く。 ・1点の座標と傾きから直線の方程式を求める。 ・平行と垂直の条件を導く。 ・中心と半径から円の方程式を求める。 ・接線の方程式を求める。 ・条件を満たす点の集合として軌跡を求める。 ・領域を図示し、活用する。	①距離、分点を求める。 ②直線や円の方程式 ③円の接線 ④軌跡を求めることができる。 ⑤領域の図示	
2	数学Ⅱ第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理	・一般角と弧度法 ・一般角まで拡張した場合の正弦、余弦、正接 ・三角関数の方程式と不等式を解く。 ・加法定理、2倍角の公式、半角の公式 ・三角関数の合成と問題解決に活用できる	・一般角と弧度法について理解する。 ・正弦、余弦、正接の値を求める。 ・三角関数の方程式と不等式を解く。 ・2倍角の公式、半角の公式を導く。 ・三角関数の合成	①一般角と弧度法 ②三角関数の値 ③三角関数の方程式・不等式 ④三角関数の合成	
【課題・提出物等】		毎日課題、週末課題、定期考査に関する課題、各長期休業中の課題など			
【年間を通しての評価方法】		定期考査、課題テスト、課題及び授業ノート等の提出物、授業に取り組む姿勢、出欠状況等を総合的に判断する。			

(2) 評価の観点・内容および評価方法

	評価の観点および到達目標	評価方法
関心・意欲・態度	各項目における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基いて判断しようとする。	授業態度、家庭学習や小テストの取り組みなど
思考・判断	各項目において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	定期考査 課題テスト
技能・表現	各項目において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	
知識・理解	各項目における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。	

(3) 評定の出し方について

**考査ポイントの具体**  
定期考査、課題テストの点数で評価する。

**平常点ポイントの具体**  
提出物…課題への取り組み方と提出状況を総合的に判断して評価する  
授業態度…授業を受けるにあたりふさわしくないと判断される行為について減点する  
その他…小テストへの取り組みなどの授業中の活動について評価する

平成27(2015)年度 シラバス

教科・科目名	数学・数学Ⅰ・数学A+数学Ⅱ	学科・学年・学級	普通科・4年・全クラス	単位数	3+2+1
--------	----------------	----------	-------------	-----	-------

1 年間の学習目標・履修上の注意等

2次関数、図形と計量、データの分析、場合の数と確率、図形の性質、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

使用教科書	数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ (数研出版)
使用副教材等	傍用問題集：サクシード数Ⅰ+A、サクシード数学Ⅱ+B (数研出版) 副教材：チャート式 基礎からの数学Ⅰ+A 基礎からの数学Ⅱ+B(数研出版) 練習ドリル 数学Ⅰ、練習ドリル 数学A、練習ドリル 数学Ⅱ (数研出版)

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查 範囲	考查に 出題す る要点 (合格ライン)
前期	4	数学Ⅰ第2章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	2次関数の最大値や最小値を求めることができる。 与えられた放物線のグラフや条件から、その2次関数を定められるようにする。	最大値や最小値を求めることができる。また、具体的な問題の解決に活用できる。 ②2次関数のグラフの考察を通して、問題を処理することができる。	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回	①最大値と最小値 ②2次関数の決定 ③2次関数のグラフの考察 ④2次不等式
		第2節 2次方程式と2次不等式	2次関数のグラフや直線の位置関係を利用して、2次方程式や2次不等式の解について理解を深め、2次不等式の解法に習熟する。	2次方程式の実数解の個数と判別式の符号との関係を理解する。 2次不等式の解の意味を理解し、その解を求めることができる。		
	5	数学A第1章場合の数と確率 第1節 場合の数	集合の包含関係や要素の個数など集合についての基本的な事項を理解する。 和の原理と積の原理の意味を理解する。 順列、組合せの意味を理解し、総数を求める。 奇素、円順列や重複順列について理解する。	集合の要素の個数を求めることができる。 ド・モルガンの法則を利用して、個数を処理することができる。 場合の数や部分集合について理解する。 場合の数、順列について理解する。 数え上げる方法を論理的に考える。 順列と組合せについて理解する。		①集合の要素の個数 ②場合の数を数えることができる ③順列、組合せの総数を求めることができる
		第2節 確率	確率の基本的な法則をまとめ、余事象などについて理解する。 独立な試行について、その意味を理解する。反復試行の確率が求められるようにする。 条件付き確率について、その意味を理解する。また、条件付き確率の公式から、確率の乗法定理を導き出す。	確率の基本的な概念を理解する。 事象の確率を処理する。 独立試行、反復試行、条件付き確率、条件付き確率について理解する。		①確率を求められる ②独立な試行の確率、反復試行の確率、条件付き確率を求められる
	7	数学A第2章 図形の性質 第1節 平面図形	辺の長さや角の大きさ、角の二等分線と辺の比、三角形の五心を使い、図形の性質を図形の考察に活用する。 内接四角形に関する性質、円の接線と弦の作る角の性質、方べきの定理や二つの円の位置関係などを扱い、これらの図形の性質を図形の考察に活用する。 基本的な図形の性質などをいろいろな図形の作図に活用できるようにする。	三角形の五心などの性質 三角形の辺の長さや角の大きさについて処理する。 メネラウスの定理やチェバの定理 内角、外角の二等分線と辺の比の関係を理解する。 円の接線と弦を結ぶ弦とのなす角の性質 円に内接する四角形の性質 円周角の定理や方べきの定理などの性質 二つの円の位置関係 基本的な作図方法を理解する。 作図したすべての点が条件を満たしていることを確認する		①円周角の定理、接弦定理、方べきの定理などを理解できる ②幾何の公式を問題の解決に活用できる ③作図の方法を理解することができる ④空間における直線や平面の位置関係を理解することができる
		第2節 空間図形	空間における直線や平面の位置関係やなす角についての理解を深める。 多面体などに関する基本的な性質について理解し、空間における直線や平面の位置関係やなす角	空間における点、直線、平面の関係 オイラーの多面体定理より、多面体における頂点、辺、面の関係 空間における直線や平面の位置関係やなす角		
9	数学Ⅰ第3章 図形と計量 第1節 三角比	三角比(正弦・余弦・正接)を導入し、直角三角形に着目させ、辺の長さに関する問題の解決に活用できるようにする。	三角比としての正弦、余弦、正接の意味を理解し、活用する。 鈍角にまで拡張した三角比の定義を理解する。 三角比の相互関係	①三角比の量を求め、相互関係を理解できる		
	第2節 三角形への応用	正弦定理、余弦定理や三角形の面積の公式について学習。平面や空間における図形の辺の長さや角の大きさおよび面積などを求められるようにする。	正弦定理と余弦定理を理解し、既知の辺や角から残りの辺や角を求める。 三角形の面積を求めることができる。また、円に内接する四角形の面積について考察する。	②正弦定理、余弦定理、面積の公式を用いることができる		

10	数学Ⅰ第4章 データの分析	統計用語の意味やその扱いについて理解させる。 四分位偏差、分散、標準偏差などに着目し、データの傾向を的確に把握する。 散布図及び相関係数の意味を理解させ、それらを利用してデータの相関性を正確にとらえ説明できるようにする。	度数分布、ヒストグラム、相対度数で表す。平均値、中央値、最頻値について理解する。 四分位偏差、箱ひげ図を理解する。 分散、分散、標準偏差を理解する。 2つの変量の相関係数について理解する。 相関係数を算出して、2つのデータの相関をとらえる。	①平均値や中央値、最頻値、四分位偏差、分散、標準偏差の意義や意味 ②散布図や相関係数、箱ひげ図を作成し、データの分析	
10	数学A第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数	約数の定義と倍数の定義、倍数の判定法、素数の定義、素因数分解、素因数分解を用いて最大公約数と最小公倍数の求め方。 割りによる整数の分類と整数の性質の証明 互除法の原理を理解し、それを利用して最大公約数を求める。 一次不定方程式を解く。 互除法について理解し、加減乗除ができる。	約数や倍数の定義や倍数の範囲で理解する。 素数の定義と素因数分解 互いに素な整数の性質を利用して、命題を証明する。 割りによる整数の分類と整数の性質の証明 互除法の原理を利用して、最大公約数を求める。 一次不定方程式を解く。 互除法について理解し、加減乗除ができる。	第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回	
11	数学Ⅱ第1章 式と証明 第1節 式と計算	多項式の割り算、分数式の計算 恒等式の性質を理解し、等式の証明を論理的に行うことができるように演習する。 等式の証明を論理的に行うことができるように演習する。	多項式の割り算、分数式の計算 恒等式の性質を理解し、等式の証明を論理的に行うことができるように演習する。 等式の証明を論理的に行うことができるように演習する。	①多項式の除法、分数式の計算 ②恒等式 ③等式 ④等式・不等式の証明	
12	数学Ⅱ第2章 複素数と方程式	2次方程式の解の範囲を実数から複素数の範囲まで拡張する。 複素数を用いた方程式の係数の関係を理解して、式の見方、考え方を深める。 1次式で割る剰余の剰余が除法によらずとも求められる。 因数定理を用いて、高次方程式の解法を知る。	複素数を導入する。 2次方程式の解を複素数の範囲に拡張する。 複素数と係数の関係を理解する。 剰余の性質を理解し、等式の証明を論理的に行うことができるように演習する。 因数定理を用いて、高次方程式の因数分解や高次の方程式を解く。	①複素数の計算 ②解の判別 ③剰余の性質 ④因数定理	
1	数学Ⅱ第3章 図形と方程式 第1節 点と直線	2点間の距離を求めることができる。 内分点、外分点と直線の位置関係 直線の方程式の関係を理解する。 2直線の位置関係を調べる。 円と直線の位置関係が中心と直線の距離によって調べられることを理解する。 不等式を満たす直線や円の領域を求めることができる。 領域と最大値、最小値の求め方を理解する。	2点間の距離を求めることができる。 内分点、外分点と直線の位置関係を理解する。 2直線の位置関係を調べる。 円と直線の位置関係が中心と直線の距離によって調べられることを理解する。 不等式を満たす直線や円の領域を求めることができる。 領域と最大値、最小値の求め方を理解する。	①距離、分点を求める ②直線や円の方程式 ③軌跡を求めることができる ④領域の図示	
		第2節 円	一般角と弧長法 一般角まで拡張した場合の正弦・余弦・正接 三角関数の方程式と不等式を解く 加法定理、2倍角の公式・半角の公式 三角関数の合成を2関数解決に活用できる	一般角と弧長法 一般角まで拡張した場合の正弦・余弦・正接 三角関数の方程式と不等式を解く 加法定理、2倍角の公式・半角の公式 三角関数の合成	①一般角と弧長法 ②三角関数の値 ③三角関数の方程式・不等式 ④三角関数の合成
【課題・提出物等】		毎日課題、週末課題、定期考査に関する課題、各長期休業中の課題など			
【年間を通しての評価方法】		定期考査、課題テスト、課題及び授業ノート等の提出物、授業に取り組む姿勢、出欠状況等を総合的に判断する。			

(2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	各項目における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基いて判断しようとする。	授業態度、家庭学習や小テストの取り組みなど
思考・判断	各項目において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	定期考査 課題テスト
技能・表現	各項目において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	
知識・理解	各項目における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。	

(3) 評定の出し方について

**考査ポイントの具体**  
定期考査、課題テストの点数で評価する。

**平常点ポイントの具体**  
提出物・課題への取り組み方と提出状況を総合的に判断して評価する  
授業態度・授業を受けるにふさわしくない判断される行為について減点する  
その他、小テストへの取り組みなどの授業中の活動について評価する

平成27(2015)年度 シラバス

教科・科目名	理科・物理基礎	学年・学級	4年・全クラス	単位数	2
--------	---------	-------	---------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

年間の学習目標	物理に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育てる。また、実験などを通じて科学的探究の方法を学び、自然現象とその応用に向けての興味・関心を高める。
履修上の注意	授業については4年生全員に対して行う。内容としては、力、運動等に関する事象・法則などについて学習する。授業に集中し、整理されたノートを作成すること。新聞、雑誌記事やテレビなどで報道される様々な科学的な事象に興味を持っておくこと。
使用教科書・副教材等	教科書 「物理基礎」数研出版 副教材 「セミナー物理基礎+物理」第一学習社

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查 範囲	考查のポ イント
前 期	4	運動の表し方 とそのつり合	・物体の運動を数式やグラフを用いて表す方法を身につける。	・速度と加速度 ・等速直線運動	第1 回 考 査	・変位x、速度v、加速度aなどの物理量を正しく扱える。
	5 6			・等加速度直線運動 ・落体の運動 ・放物運動		・グラフによって表現できる。
	7	いろいろな力 とそのつり合	・様々な力を理解する。 ・力の合成と分解の方法を知る。 ・具体的な素材について力のつり合いの式が立てられるようになる。	・張力、弾性力、浮力、 摩擦力など。 ・力の作用とつり合いの式。	第2 回 考 査	・力の合成、 分解ができる。 ・運動の法則をいろいろな物理系に適用できる。
	9	運動の法則	・運動の3法則を理解する。 ・運動方程式の立て方を習得する。	・慣性の法則 ・運動の法則 ・作用反作用の法則 ・いろいろな物体の運動		・運動方程式を解いて、加速度、力などを求めることができる。

10 11 12	仕事と力学的エネルギー	・力のする仕事と表し方を理解する。 ・力学的エネルギーと仕事とのつながりを理解する。	・力のする仕事。 ・運動エネルギー、重力による位置エネルギー、弾性力による位置エネルギーの原理。 ・エネルギーの保存の法則。	第3 回 考 査	・運動エネルギー、位置エネルギーと、仕事の関係を正しく理解する。 ・エネルギー保存、非保存の場合の方程式が利用できる。 ・熱量保存則を使うことができる。	
	仕事と力学的エネルギー	・力学的エネルギー保存則の使い方を習得する。	・エネルギーの原理。 ・力学的エネルギー保存の法則。		第4 回 考 査	・波の基本的性質を理解 ・音波の諸性質を理解できる。 ・電気現象についていろいろな面から理解する。
	熱とエネルギー	・比熱を理解し、熱量保存の式を立てられるようにする。	・比熱、熱容量、熱平衡 ・熱量保存			
1 2 3	波  電気と磁気	・波の性質を理解する ・波の干渉現象を理解する ・音の諸現象を理解する  ・電流と電気抵抗 ・電流と磁界 ・交流と電磁場	・波の周期性 ・波動を表す数式 ・重ね合わせの原理 ・音の振動数と高さ  ・抵抗の形状と抵抗値 ・電流のつくる磁界 ・交流の利用			
【課題・提出物等】		授業ノート、演習ノート、課題プリントの提出				
【年間を通しての評価方法】		定期考査、提出物、授業態度、出席状況等を総合して評価する。				

(2) 評価の観点・内容・および教科方法

評価の観点および到達目標		評価方法
思考・判断	物理的事象について疑問を持ち、問題点をきちんと把握できるか。またその問題点の解決方法を思いつくか。これらをノート、プリント、定期テストから評価する。	ノート、プリント、授業態度、テスト
技能・表現	実験の技能を習得しているか。その結果をグラフや図などにしつわりやすく表現できるか。これらをノート、プリント、レポート、定期テストを通して評価する。	ノート、プリント、授業態度、テスト
知識・理解	事象、現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、それを知識として身につけているか。これらを定期テスト、プリント、ノートを通して評価する。	ノート、プリント、授業態度、テスト

(3) 評定の出し方について

<p>考查ポイントの具体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定期考査(100点)を7割とする。</li> </ul> <p>平常点ポイントの具体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 提出物、課題、授業態度をそれぞれポイントにより評価し、3割とする。</li> </ul>
--

3 担当者からのメッセージ

<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業プリントを使用するので、プリントへ記入してノートを作成する。</li> <li>・考査問題は事前に配布するプリントを元に作成する。</li> <li>・課題のプリントは演習ノートに切り貼りして作成する。自分で添削すること。</li> <li>・副教材の問題集は自学自習用である。単元毎に自主学習しておくこと。</li> </ul>
---

平成27(2015)年度 シラバス

教科・科目名	理科・生物基礎	学科・学年・学級	普通科・4年・全員	単位数	2
--------	---------	----------	-----------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

- 多種多様な生物現象について観察・実験などを行い、それらの探究活動を通して、生物や生物現象に関して探究する力をつけていく。
- 自然現象に対して興味・関心を高め、疑問点を主体的に見出せるようになる。

使用教科書 副教材等	教科書：高等学校 生物基礎(第一学習社) 資料集：(第一学習社) スクエア最新図説生物neo 問題集：セミナー生物基礎(第一学習社)
---------------	---

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查 範囲	考查に出題 する要点 (合格ライン)		
前期	4	第1章 生物の特徴 1 生物の多様性と共通性	・地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が生息しており、生物は多様であることを理解する。 ・代謝には同化と異化があること、また、代謝に伴うエネルギーの移動にはATPがかかわっていることを理解する。 ・メンデルによる遺伝子の存在の仮定からDNAの構造の解明に至るまでの概要を理解する。	観察1 原核細胞と真核細胞の観察	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回	・細胞の大きさと形 ・単細胞～多細胞生物 ・細胞構造 ・DNAの構造 ・体細胞分裂の過程 ・細胞周期の観察実験方法		
		2 細胞とエネルギー		実験1 葉緑体と光合成				
		5 第II章 遺伝子とその働き 1 遺伝現象と遺伝子 2 遺伝情報の複製と分配		実験2 DNAの抽出				
	7	3 遺伝情報とタンパク質の合成	・生体内には多種多様なタンパク質が存在し、酵素などとしてさまざまな働きをしていることを理解する。	実験3 酵素カタラーゼの働き			第2回	・DNAから転写、翻訳、タンパク質合成 ・酵素の特性 ・血液の働き ・肝臓の働き ・体液の濃度調節
		9 第3章 生物の体内環境 1 体液とその働き		観察3 血球の観察				

後期	10	2 体液防御	・皮膚、上皮、白血球などの生体防御について理解する。 ・動物の体液の濃度が、自律神経とホルモンの働きによって調節されていることを理解する。 ・バイオームの概念を理解する。 ・陸上には、その地域に生育する植物を基盤とした様々なバイオームが成立することを理解する。	観察4 査作用の観察	第3回 第4回	・免疫のしくみと働き ・自律神経の働き ・ホルモンの働き ・血糖調節 ・体温調節			
		3 体内環境の維持のしくみ					実験4 運動による心臓の拍動数の変化		
	11	第4章 バイオームの多様性と分布 1 生物の多様性	・バイオームはそこに生育する植物の生活形によって特徴づけられることを理解する。 ・生態系の構成について理解する。 ・生物の個体数や量は、常に一定の範囲内で変動しながらバランスが保たれていることを理解する。	観察5 校庭の植生と光環境 観察6 バイオーム調査					
		2 バイオームの形成過程 3 バイオームとその分布					観察7 菌根菌の観察		
	12	1 第5章 生態系とその保全 1 生態系	・生態系の構成について理解する。 ・生物の個体数や量は、常に一定の範囲内で変動しながらバランスが保たれていることを理解する。	観察8 河川の観光調査					
		2 生態系のバランスと保全 3 生態系の保全							
	【課題・提出物等】						①休業中の課題、②実験レポート、③授業ノート、④問題集ノート		
	【年間を通しての評価方法】						①定期考査②小テスト③実験レポート④授業ノート⑤問題集ノートを総合的に判断し、評価していく。		

(2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	・身近な自然現象に興味・関心をもち、積極的に授業へ参加しているかどうか 到達目標：班別実験など積極的に参加し、丁寧なレポートを作成する。また、授業に関わる提出物などは完璧に提出する。忘れ物をしない。	授業態度の観察 ノート・課題の提出状況 授業中の発言や授業後の質問等
思考・判断	・事実に基づいて科学的に判断する力にみているかどうか	考查点 レポートの内容
技能・表現	・観察・実験に必要な基本的な技能が身につけているかどうか 到達目標：実験観察を積極的に行い、わかりやすいレポートをまとめる。	実験・観察がうまくできているかどうか レポートの内容
知識・理解	・自然に対する基本的な概念や原理・法則を理解し、基本知識が身に付いているかどうか 到達目標：定期考査・小テストが満点である。レポートの内容が良い。	考查点 小テスト

(3) 評定の出し方について

<p><b>考查ポイントの具体</b> 定期考査(100点満点)を実施し、それを7割とする。</p>
<p><b>平常点ポイントの具体</b> 態度、提出物、実験レポート、スケッチ、課題をそれぞれポイントにより評価し、合計したものを評価全体の3割とする。</p>



平成27(2015)年度 シラバス

教科・科目名	保健体育・体育	学年・学級	4年・全クラス女子	単位数	2
--------	---------	-------	-----------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

1. 各種の運動の合理的な実践を通して、運動能力を高め、強健な心身の発達を促すとともに、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる能力と態度を育てる。
2. 自分の能力に応じた課題、集団としての課題を設定し、課題解決のため工夫したり、自らの判断で運動を実践できる能力を育てる。
3. 運動文化を創造・発展させることのできる主体者を育てる。

使用教科書・副教材等	Active Sports(総合版) 大修館書店、現代高等学校保健体育 大修館書店
------------	---

2 学習計画および評価方法等

(1)学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	調査範囲	評価の観点の ポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
期前	4	オリエンテーション 体づくり運動	①自己の体に関心を持ち、自己の体力に応じた運動を行う。 ②運動に対する関心や意欲を高めるとともに、協力して運動ができるようにする。 ③体ほぐしの行い方と体力の高め方を実践的に工夫できるようにする。	①体ほぐしの運動・体力を高める運動を協力して行う。 ②能率的で安全な集団としての行動の仕方を身につける。		○	○	○	○
	5	陸上競技 *幅跳び  *ターボジャブ	①自己の体力に応じて課題を設定し、自主的・合理的な練習を通して技能を高めるようにする。  ①自己の能力に応じて投げる技能を高め、競技したり、記録を高めることができるようにする。 ②課題解決を目指し、計画的な練習や競技の仕方を工夫できるようにする。	①助走、踏み切り、空中動作、着地などの技術を理解し、習得する。 ①助走、ステップ、投げ方などの技術を理解し、習得する。 ①投てきには突き出して投げる種目、回転して投げる種目があるが、危険防止の立場からスタンディングからの投てき技能を高め、より遠くへ投げるようにする。		○	○	○	○
	6	球技 *バレーボール	①競技の特性を理解し、個人的技能・集団的技能を習得する。 ②自己の課題やチームの課題解決を目指し、安全に留意しながら練習方法を工夫できるようにする。 ③チームにおける自己の役割を自覚し、協力して練習やゲームができるようにする。	①サーブ・パス・スパイクなどの基礎技術を習得する。 ②チーム内で練習方法を工夫し、効率よく練習をする。 ③自己やチームのレベルに応じて作戦をたてたり、ルールを工夫してゲームを行うことができる。 ④審判法を学習し公正な態度で審判ができる。		○	○	○	○
	8 9	体育理論 *運動・スポーツの文化的特徴	スポーツの意義や歴史、文化的特徴や、現代スポーツを取り巻くさまざまな問題について学ぶ。	・人間にとって動くとは何か ・スポーツの始まりと変遷 ・文化としてのスポーツ		○	○	○	○

後	10	ダンス	①自己の能力に応じて、楽しみながら体を動かし、身体表現を通して自己実現ができ、その喜びを味わうことができるようにする。 ②安全に留意して、計画を立て、互いに協力し、1つの作品を創りあげ喜び、楽しさを味わうことができるようにする。	①音楽に合わせて、楽しくリズムカルに精一杯動けるようになる。 ②自由なイメージで、個性を発揮した動きで表現できるようにする。 ③群の動きや構成の仕方を工夫して、仲間と協力して作品を創り、発表する。		○	○	○	○
	11	陸上競技 *長距離走	①自己の体力に応じて課題を設定し、自主的・合理的な練習を通して技能を高めるようにする。 ②安全に留意し、課題を指摘しあいながら協力して活動できるようにする。	①自分のペースをコントロールし、長い距離をどのように走りきるかを考えさせ、自分に合った走り方を習得する。		○	○	○	○
	12	球技 *バドミントン	①競技の特性を理解し、個人技能や集団技能を習得する。 ②自己の課題やチームの課題解決を目指し、練習の仕方を工夫できるようにする。 ③チームにおける自己の役割を自覚し、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、勝敗に関して公正な判断ができるようにする。	①ゲームに必要な基本技術(フットワーク・ストローク・サーブなど)を習得する。 ②バドミントンの特性や基礎知識を理解し、自主的に課題を持って練習を行う。 ③安全に留意し、ルールやマナーの遵守や準備・後片づけ・審判などの役割を分担して責任を果たす。		○	○	○	○
期	1	体育理論 *運動・スポーツの文化的特徴	スポーツの意義や歴史、文化的特徴や、現代スポーツを取り巻くさまざまな問題について学ぶ。	・オリンピックと国際理解 ・スポーツと経済 ・ドーピングとスポーツ倫理		○	○	○	○
		【課題・提出物等】							
		【年間を通しての評価方法】		1. 各種目の実技評価(スキルテスト) 2. 出欠状況 3. 授業態度・取り組み姿勢(忘れ物・遅刻なども含む)					

(2)評価の観点・内容および教科方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように自ら進んで計画的に運動をしようとする。個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	行動観察 出欠状況 参加姿勢(忘れ物・遅刻等)
思考・判断	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え、工夫している。また、個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。	行動観察 学習記録(学習カード等)
技能	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わおうとするとともに、体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につけている。	実技テスト 授業観察記録
知識・理解	生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身につけている。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につけている。	学習記録(学習カード等)

(3)評定の出し方について

調査ポイント	
平常点ポイント	各単元におけるテスト(70p) 授業参加態度・意欲(10p) 授業道具忘れ物(10p) 授業出席点(10p)

平成27(2015)年度 シラバス

教科・科目名	保健体育・保健	学年・学級	4年・全クラス	単位数	1
--------	---------	-------	---------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

個人及び社会生活における健康や安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身につける。

使用教科書・副教材等 現代高等保健体育(大修館書店)・現代高等保健体育ノート(大修館書店)

2 学習計画および評価方法等

(1)学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查 範囲	考查に出題する 要点(合格ライン)
前	4	私たちの健康のすがた	健康指標ではけられた健康水準をみながら、日本人やそれぞれの集団が抱えている健康課題を理解する。	わが国における健康水準の向上 わが国における健康問題の変化	授業内容や教科書・保健ノートで学習した基本的な内容が理解できている	
		健康のとらえ方	各自が健康について考え、「健康とは何か」をさまざまな角度から理解する。健康が受ける影響にはよいものと悪いものがあり、その要因を考え、健康を成立させるものを理解する。	健康についての多様な考え方 健康の成り立ちとその要因		
		健康と意志決定・行動選択	生活習慣や行動は健康に関連していることを知り、それらは自身が求める健康な意志決定と行動選択が大切であることを理解する。	意志決定・行動選択とそれに影響を与える要因 健康的な意志決定・行動選択を実現する工夫		
	5	健康に関する環境づくり	自然環境だけでなく、社会環境も健康にとって重要であることを学習し、どのようにすれば社会環境を健康的に改善することができるかを理解する。	健康づくりを支える環境 ヘルスプロモーションの考え方もとづく環境づくり		
		生活習慣病とその予防	生活習慣病とは何かを知り、現在の行動が将来そうした病気を引き起こす原因になっているかもしれないことを知り、それを予防する方法を理解する。	生活習慣病とは 生活習慣病の予防		
		食事と健康	健康的な食生活の重要性と意義 健康的な生活習慣の形成	健康的な食生活の重要性と意義 健康的な生活習慣の形成		
6	運動と健康	食事とともに体をづくり、いきいきとした生活を送るために、健康にいい運動とはどのようなものかを理解する。	健康からみた運動の意義 健康づくりのための運動習慣の形成			
	休養・睡眠と健康	食事とともに、心身の働きを高めたり回復したりして、いきいきとした生活を送るために、健康にいい休養・睡眠とはどのようなものかを理解する。	健康からみた休養・睡眠の意義 健康からみたよりよい休養・睡眠のとらえ方			
	喫煙と健康	喫煙がもたらす大きな健康被害を知り、開始とされているさまざまな対策や、これからのような対策が必要であることを理解する。	喫煙の健康影響 喫煙開始の要因と依存性 喫煙への対策			
7	飲酒と健康	過度の飲酒が体に及ぼす影響や問題点を知り、現在とられているさまざまな対策や、これからのような対策が必要であることを理解する。	飲酒の健康影響 飲酒開始の要因と社会問題 飲酒への対策			
	薬物乱用と健康	薬物乱用の問題点や社会に及ぼす影響を知り、現在とられているさまざまな対策や、これからのような対策が必要であることを理解する。	薬物乱用の健康影響 薬物乱用開始の要因と社会問題 薬物乱用の防止と対策			
	薬物乱用と健康	薬物乱用の問題点や社会に及ぼす影響を知り、現在とられているさまざまな対策や、これからのような対策が必要であることを理解する。	薬物乱用の健康影響 薬物乱用開始の要因と社会問題 薬物乱用の防止と対策			
9	現代の感染症	病原体により引き起こされる感染症の現状や感染症を取り除く状況の変化を理解する。	感染症とは 新たに注目される感染症 再び問題となっている感染症			
	感染症の予防	感染症予防の原則や、社会や個人がすべき対策は何かを理解する。	感染症予防の原則 現代の感染症対策			

後	10	11	12	1	2
後	10	11	12	1	2
期	10	11	12	1	2
【課題・提出物等】	保健ノート・プリント				
【年間を通しての評価方法】	授業中の発言及び対話等の観察 保健ノートの記入・活用状況 定期テスト 出席状況 忘れ物状況				
【教科テスト実施予定等】	年2回実施(第2回考查・第4回考查)				

(2)評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	自他の心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、進んで学習に取り組みとする。	授業中の発言及び対話等の観察 保健ノートの活用
思考・判断	自他の心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に考え、選択すべき行動を適切に判断している。	保健ノート及び 授業プリント
知識・理解	健康・安全の意義を知り、心身の機能の発達や心の健康、健康と環境、障害の防止、健康な生活と疾病の予防などの課題の解決に役立つ基本的な事項を理解し、知識を身につけている。	定期テスト 保健ノートの採点

(3)評定の出し方について

考查ポイント
定期考查(70p)
平常点ポイント
授業参加態度・意欲(10p)、授業出席点(10p)、忘れ物・提出物(10p)



平成27(2015)年度 シラバス

教科・科目名	芸術・音楽Ⅰ	学年・学級	4年・選択者	単位数	2
--------	--------	-------	--------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

歌唱ではイタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲を学習します。器楽ではリコーダー、ヴァイオリン、箏を使用し基本的な曲から難易度の高いものまで演奏していきます。音楽史ではルネサンスの時代から現代まで1年間通して鑑賞も含めながら追っていきます。

使用教科書 ON! (音楽之友社)  
副教材等 つどい 高校生の歌集  
音楽通論

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查 範囲	評価の観点 のポイント			
						関 心 ・ 意 欲	思 考 ・ 判 断	技 能 ・ 表 現	知 識 ・ 理 解
前 期	4月	サンタ ルチア	発声法、イタリア語読みの確認・読譜の確認・表現力の向上	歌唱	第1回 回 考 査	○	○	○	○
	6月	ルネサンス	西洋音楽の基礎知識の向上	音楽史・鑑賞		○	○	○	○
		野ばら	発声法、ドイツ語読みの確認・読譜の確認・表現力の向上	歌唱		○	○	○	○
		バロック	西洋音楽の基礎知識の向上	音楽史・鑑賞		○	○	○	○
		9月	リコーダー	鑑賞・弦楽器の演奏技術・読譜・表現の向上		器楽・アンサンブル	○	○	○
	後 期	10月	古典	西洋音楽の基礎知識の向上		音楽史・鑑賞	○	○	○
ヴァイオリン			鑑賞・弦楽器の演奏技術・読譜・表現の向上	器楽・アンサンブル	○	○	○	○	
ロマン派		西洋音楽の基礎知識の向上	音楽史・鑑賞	○	○	○	○		
		カロ ミオ ベン	発声法、イタリア語読みの確認・読譜の確認・表現力の向上	歌唱	○	○	○	○	

後 期	12月	この道	発声法、日本語の発音確認・読譜の確認・表現力の向上	歌唱	第4回 考 査	○	○	○	○
		近代音楽	西洋音楽の基礎知識の向上	音楽史・鑑賞		○	○	○	○
		きれいな鈴の音	発声法、ドイツ語読みアンサンブル・表現力の向上	歌唱・アンサンブル・演技		○	○	○	○
	1月	さくらさくら	鑑賞・和楽器の演奏技術・読譜・表現の向上	器楽・アンサンブル	○	○	○	○	
【課題・提出物等】			鑑賞ノート						
【年間を通しての評価方法】			毎曲ごとに全員の前で発表しそれを実技の評価とする。曲を理解し十分な表現力をもって演奏できるか評価する。鑑賞ノートが十分に書けているか評価する。						
【教科テスト実施予定等】			なし						

(2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	授業態度や課題に対する取り組みの姿勢、忘れ物はないか、等の観点から評価します。	出欠状況・授業態度・取り組み姿勢(忘れ物・遅刻)
思考・判断	与えられた表現課題から多様な表現形式、表現方法を工夫しているか。様々な作品から感じた印象や自分の感想を、自分自身の言葉で表現できるか。実技や鑑賞を中心に評価します。	取り組み姿勢(実技・筆記)
技能・表現	与えられた表現課題の楽曲構成の美しさや表現効果を理解し考え、使用楽器や演奏法を、楽曲の表現意図に応じて活用しているかなど実技から評価します。	実技テスト・取り組み姿勢(実技、個人・グループ)
知識・理解	音楽に関する基礎知識を理解しているか。授業で使用する様々な作品の中で、その知識を応用できているか。授業態度・筆記・実技で評価します。	ノート・取り組み姿勢(実技・筆記)

(3) 評定の出し方について

<p>考查ポイントの具体 実技試験</p>
<p>平常点ポイントの具体 授業態度や課題に対する取り組みの姿勢、忘れ物はないか、等の観点から評価します。</p>

平成26(2014)年度 シラバス

教科・科目名	芸術・美術 I	学年・学級	4年・選択者	2
--------	---------	-------	--------	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

表現と鑑賞を通して美的直観力や創造力・発想力、日常生活の中に美を探究する態度や感性を高める。観察による具象表現と鑑賞活動とのバランスに留意した活動を通して基礎的な能力を高める。題材の目的や条件の把握を徹底して学習効果を高めていく。なお、4年次に履修した芸術（美、音、書）の教科は3年間変更できない。

使用教科書・副教材等	日本文教出版 高校美術 1
------------	---------------

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	評価の観点のポイント			
					関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
前期	4 5	高校美術の学習目標と予定について	美術の学習の意義を理解する。	美術の学習の意義について考え、プリントにまとめる。	○			○
		手の表情をデッサンしよう	形、明暗、質感等に留意しながらじっくり観察する態度を深め、表現者の視点を感じ取ることができる。	鉛筆で濃淡を意識して表現する。	○	○	○	○
	6	アニメーションの世界を理と解し、世界と日本の作品を鑑賞しよう	国内外で制作発表された短編アニメーション作品の鑑賞を通して現代の表現の展開の広さを理解する。	映像の鑑賞と記録物を製作する。	○	○	○	○
		アクリル絵の具で生き生きとした手を描こう	アクリル絵の具を理解する。油絵の道具、材料を理解する。色彩やテクスチャー、光と影の関係を観察して、絵画的な空間の表現について学ぶ。	水彩画紙四つ切サイズにアクリルガッシュ絵具による観察を基にした絵画表現を行う。	○	○	○	○
	8	美術館鑑賞	課題として美術館を鑑賞し、レポートを提出する。		○	○		○

後 期	9 10 11	油絵制作 (1) 主題が伝わる構図や構成を工夫して観察による静物画を油絵で描こう	油絵を理解する。油絵の道具、材料を理解する。色彩やテクスチャー、光と影の関係を観察して、絵画的な空間の表現について学ぶ。	キャンバスサイズF8号サイズに油絵の具による観察を基にした絵画表現と鑑賞を行う。	○	○	○	○	
	12 1 2 3	油絵制作 (2) 主題が伝わる構図や構成を工夫して、自由課題で油絵を描こう	油絵の理解を深める。油絵の道具、材料の理解を深め、応用する。色彩やテクスチャー、光と影の関係を観察して、絵画的な空間の表現を深めて表現する。	キャンバスサイズF3号サイズに油絵の具による自由課題による絵画表現と鑑賞。	○	○	○	○	
		【課題・提出物等】	・授業時の提出作品またはレポート						
		【年間を通しての評価方法】	・取り組む姿勢、忘れ物、作品提出の内容を評価材料とする。 ・各学期ごとの成績を総合的に判断して年間の学習成績とする。						

(2) 評価の観点・内容・および教科方法

評価の観点および到達目標	
関心・意欲・態度	準備物、自主的な研究課題の取り組みや計画性のある制作姿勢など、作品制作に対する取り組み姿勢から評価します。
発想・構想の能力	与えられた表現材料から多様な表現形式、表現方法を工夫しているか、作品制作の過程や完成・提出作品により評価します。
創造的な技能	形や色彩、構成の美しさや表現効果の工夫、技法や用具を表現意図に応じて活用しようとしているかを作品制作の過程や完成・提出作品により評価します。
鑑賞	生徒相互の作品や様々な名作の鑑賞に際して、作者の制作意図や感情、時代背景などを感じ取ろうとしたことの自己表現として、鑑賞レポート等から評価します。

(3) 評定

平常点のポイント	授業態度、忘れ物3割	授業作品・レポート7割
----------	------------	-------------

平成27(2015)年度 シラバス

教科・科目名	芸術・書道Ⅰ	学年・学級	4年選択者	単位数	2
--------	--------	-------	-------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

使用教科書・副教材等	東京書籍 書道Ⅰ
------------	----------

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	評価の観点 のポイント				
						関心・ 意欲・ 態度	思考・ 判断	技能・ 表現	知識・ 理解	
前 期	4	基本	用具・筆の持ち方の理解 点画の用筆の理解	書道とは 用具・筆の持ち方・点画の用筆	○	○	○	○	○	
	5	半紙作品 古典	楷書・行書の基本の理解 古典の理解	楷書・行書の基本 古典作品・臨書						
	6	九成宮醜泉銘 孔子廟堂碑 顔法	背勢の理解 向勢の理解 重量感の理解	九成宮醜泉銘・背勢 孔子廟堂碑・やや向勢 顔氏家廟碑・向勢						
	7	鄭道昭書法 造像記 楷書法創作 作品鑑賞	藏鋒・円筆 露鋒・方筆 古典の特徴や技法の創作 鑑賞ができるか	鄭義下碑 藏鋒・円筆 牛極造像記 露鋒・方筆 豊かな表現力と観賞力 作品鑑賞						
	8	7	隷書	隷書の用筆法・運筆法の理解						逆筆・波磔の理解
	9	9	行書法	蘭亭序の理解						蘭亭序 俯仰法・双鉤てん墨
	10	10	漢字仮名交じり書 の作品	漢字仮名交じり書の理解 作品の表現方法の理解						漢字仮名交じり書について 題材の選定および表現の研究
	11	11	仮名の練習 空間把握	仮名の基本 自分で組み立てられるか						古典臨書 漢字仮名交じり書の再構築
	12	12	12	12						12
後 期	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
	4	4	4	4	4	4	4	4	4	

【課題・提出物等】	・授業時の作品、課題プリント、ファイル
【年間を通しての評価方法】	・授業態度・意欲・作品・作品の伸び等が評価材料になる。 ・各学期ごとの成績を総合的に判断して年間の学習成績とします。

(2) 評価の観点・内容・および教科方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	各作品の完成度、作品制作に対する取り組み姿勢から評価します。さらに制作にあたっての授業道具の準備、忘れ物はないかなども評価の対象となります。書き始めよりレベルが上がるための努力をどの位しているか、書作を通して評価します。	出欠状況・授業態度・取り組み姿勢(忘れ物・遅刻)
思考・判断	書く題材をもとに、より良い作品を創るためにどういった表現を工夫するべきかを考え、筆遣い・墨継ぎ・かすれ・強調したいポイント等を押さえた上で書かれた作品かを評価します。	制作事前プリントの確認 作品草稿等
技能・表現	自分で考え、工夫した空間の処理方法や表現方法を使い、筆と墨を効果的に使うことで、自分自身の本来表現したかったものに、どの位近づいたかできたかを評価します。	授業作品を通して作品草稿との比較を行う
知識・理解	客観的に作品に対して向き合えたか、自分自身を見つめ直すことができたか、作品制作を通して変化した部分を評価材料とします。	個人作品・グループ作品添削プリントの確認

(3) 評定の出し方について

考查のポイント	授業態度、忘れ物3割	授業作品 7割
平常点のポイント		

3 担当者からのメッセージ

毎回作品提出があり、自己の限界を求めて授業を進めます。少ない練習でも中身の濃い作品を作り上げるよう、頭を使って理論的な組み立てをしていきます。中学時のお習字、書写とは違い、芸術の中の【書】として言葉、道具を大切に、創作活動を行います。

平成27(2015)年度 シラバス

教科 科目名	外国語 英語表現 I	学科・学年・学級	普通科・4年・全クラス	単位数	3
-----------	---------------	----------	-------------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

・学習の到達目標：英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけるとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。  
 ・予習、復習など家庭学習を習慣づけ、小テストや定期テストを通じて積極的に到達度の確認をする。  
 ・授業用具（教科書、ノート、辞書、総合英語参考書）を忘れない。  
 ・提出物の期限を守る。

使用教科書 副教材等	使用教科書： Vision Quest English Expression I Standard 使用副教材： DUAL SCOPE English Grammar in 27 デュアルスコープ 総合英語 五訂版
---------------	---

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查 範囲	考查に出題 する要点 (合格ライン)		
前 期	4	L1 Let's have lunch together sometime	文法：文の種類 機能：相づち を打つ／聞き直す 話題：紹介 発音：イントネーション	・文構造を踏まえ英文を 書き、口頭で表現する。 ・文法事項を理解し、問 題が解けるようにする。 ・学んだ文法事項を演習 する。	第1 回 考 査	①教科書の1 文、1文を正確 に書くことが できる。 ②文法事項を 理解し、演習 問題教材の文 法問題を正確 に解くことが できる。③基本 的なまとまり のある文章を書 くことができる。		
	5	L2 Are you interested in Japanese anime?	文法：文型と動詞 機能：言い 換える／話題を交える 話題： 興味・関心 発音：リズム					
	6	Show & Tell L3 I'm going to Okinawa with my family L4 I hear you've joined the soccer team	紹介、発表の仕方 文法：時勢 機能：計画する／ 予定する 話題：旅行 発 音：母音 文法：完了形 機能：原因、理 由を述べる 話題：スポーツ 発音：子音	(・模擬試験対策)				
	7	Useful Words & Phrases L5 Can you tell me what ammitsu is like?	トピック別の単語・フレーズ 文法：助動詞 機能：許可を求 める／依頼する 話題：食事 発音：カタカナ語	・文構造を踏まえ英文を 書き、口頭で表現する。 ・文法事項を理解し、問 題が解けるようにする。 ・学んだ文法事項を演習 する。			第2 回 考 査	①教科書の1 文、1文を正確 に書くことが できる。 ②文法事項を 理解し、演習 問題教材の文 法問題を正確 に解くことが できる。③基本 的なまとまり のある文章を書 くことができる。
	8	L6 I'm glad I can see the Sydney Opera House	文法：受動態 機能：喜ぶ／ 驚く 話題：観光 発音：数字 の発音					
	9	Linking Words L7 It's very nice of you to say so L8 How about going to see a musical?	つなぎ言葉の使い方 文法：不定詞 機能：感謝する ／謝罪する 話題：交際 発音：アクセント 文法：不定詞 機能：感謝する ／謝罪する 話題：交際 発音：アクセント					

後 期	11	L9 I'm for school uniform Paragraph	文法：分詞 機能：賛成する／ 反対する 話題：ルール 発 音：変わる音 パラグラフの構成	・文構造を踏まえ英文を 書き、口頭で表現する。 ・文法事項を理解し、問 題が解けるようにする。 ・学んだ文法事項を演習 する。	第3 回 考 査	①教科書の1 文、1文を正確 に書くことが できる。②文法 事項を理解し、 演習問題教材 の文法問題を正 確に解くことが できる。③基本 的なまとまり のある文章を書 くことができる。
	12	L10 How do you spend Christmas?	文法：関係詞 機能：説明する 話題：文化 発音：聞こえな くなる語			
	1	L11 Did you watch the debate on TV last night?	文法：比較 機能：意見を述べ る／主張する 話題：社会問 題 発音：文の中での強調	・文構造を踏まえ英文を 書き、口頭で表現する。 ・文法事項を理解し、問 題が解けるようにする。 ・学んだ文法事項を演習 する。	第4 回 考 査	①教科書の1 文、1文を正確 に書くことが できる。②文法 事項を理解し、 演習問題教材 の文法問題を正 確に解くことが できる。③基本 的なまとまり のある文章を書 くことができる。
	2・3	L12 I wish my parents were more understanding.	文法：仮定法 機能：助言する ／提案する 話題：悩み事 発音：アメリカ英語とイギリス英 語			
【課題・提出物等】		課題：・家庭で必ず予習してくる ・長期休業中は別途指示する 提出物：授業用ノート、ワークブック、長期休業中の課題				
【年間を通しての評価方法】		・定期考査、課題テスト ・平常点（・提出物の内容、提出期限が守られているか・小テスト の得点・授業中の態度・積極的に授業に参加しているかなど）				

(2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標	評価方法	
関心、意 欲、態度	モデル会話に関心を持ち、聞き、発話している。 間違いをおそれず、積極的に表現している。 積極的にコミュニケーションをはかっている。	授業中の活動 課題の提出
思考、判断	モデル会話に関する英文や、発音に関する語句や英文を聞き正しい解答 を選べる。 つなぎ言葉の使い方やパラグラフの構成を理解している。	授業中の活動、発表 課題の提出 小テスト、定期考査
技能、表現	いろいろなトピックについて、書いたり話したりすることができる。 いろいろなトピックをについて、英語で簡単な発表ができる。	授業中の活動、発表 課題の提出 小テスト、定期考査
知識、理解	いろいろなトピックについて、内容を理解することができる。 それぞれの課で学んだ文法を理解している。 学習した文法を理解し、知識として定着している。	授業中の活動 課題の提出 小テスト、定期考査

(3) 評定の出し方について

<p>考査ポイントの具体</p> <p>各定期考査 課題テスト</p> <p>平常点ポイントの具体</p> <p>提出物・・・授業ノート、ワークブック、英作文課題、長期休業中の課題 * 期限を守って提出 授業態度・・・発表、予習、居眠り、私語、授業道具忘れ、授業遅刻 その他・・・小テスト、音読テスト等の活動についても平常点に加える。</p>
---

平成27(2015)年度 シラバス

教科・科目名	家庭・家庭基礎	学年・学級	4年・全クラス	単位数	2
--------	---------	-------	---------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

<p><b>学習目標</b></p> <p>1 一人ひとりが自立して生活できるよう、基本的な知識と技術を習得する。</p> <p>2 学習を通じて、自身の「生き方・在り方」を考え、自分の「心身」やその「生活」がより望ましいものとなるように取り組む。</p> <p>3 望まれる社会の実現のための担い手となる力を身につける。</p>
<p><b>履修上の注意</b></p> <p>様々な角度から社会について学び、「自分に何ができ、何をせねばならないのか」「自分自身の生き方をどう創っていくのか」を考えるなど、家庭基礎で学ぶ内容は自分の人生を築いていくことそのものです。限られた時間ですが、授業で取り上げていく問題について積極的に考え、自分の意見を持ち、自分にとって最も望ましい生き方が実現できるようにしっかり取り組んでほしいと思います。新聞記事等を積極的に読み、社会への関心・理解をより深めていきましょう。</p>
<p><b>使用教科書</b> 教科書：第一学習社「家庭基礎 ともに生きる・未来をつくる」 副教材等 副教材：第一学習社「生活ハンドブック」</p>

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	考查に出題する要点 (合格ライン)
前期	4	家庭科を学習するに当たって		家庭科を学ぶ意義	第2回 回 考 査	・授業で使用する学習プリントの内容 ・授業での考察に関すること
	5	ともに生きる社会をめざして～青年期・高齢期・共生社会と福祉	発達課題と私たちの課題について考える。 男女共同参画社会の実現をめざし、男女がどのように協力すればよいか、その課題について考える。	人の一生と生涯発達 ジェンダーと性別役割分業意識 家事労働と職業労働の両立		
	6	自立した生活を目指して～装う	健康で快適な衣生活をおくる力を養う	被服と健康 健康で安全な衣生活		
	7	消費を考える	消費生活と環境との関りを理解し、環境負荷の少ない生活を送るために自分の生活様式を見直し、実践していく力を養う	環境にやさしいライフスタイル 環境にやさしい消費行動		
	8	自立した生活を目指して～食べる	「食べる」ことが一生にわたって自分の心身や生活のリズムをつくっていることを認識し、よりよい食生活を確立していく力を養う	食生活と栄養 ・豊かな食生活のために ・現代の食生活とその課題 ・栄養素の働き ・栄養所要量と摂取量のめやす		
9						

後期	10				第4回 回 考 査	・授業で使用する学習プリントの内容 ・授業での考察に関すること
	11	自立した生活を目指して～食べる	「食べる」ことが一生にわたって自分の心身や生活のリズムをつくっていることを認識し、よりよい食生活を確立していく力を養う	食品の選択 ・食品の栄養と特性 ・食品の選択と衛生 ・食生活の安全と衛生 ・食生活を見直す 献立と調理 ・調理の基本 ・調理実習		
	12					
	1					
	2	ともに生きる社会をめざして～壮年期	青年期にある自分と向き合い、自己管理や自分の「生き方・あり方」、男女が協力して社会を築くことの意味について考える	青年期のからだで心 青年期の課題 男女の平等と相互協力 ・男女平等と性差 ・「育つ」と「育てる」 ・児童虐待と子どもの人権		
3						
【課題・提出物等】		毎時間の終了時に、授業プリントを提出する。その他の提出物や課題等は、授業時に指示する。				
【年間を通しての評価方法】		毎時間の授業プリントの内容、授業規律の定着度、授業への取り組み、定期テスト、課題、提出物、出席状況などを総合的に判断して評価する。				
【教科テスト実施予定等】		なし				

(2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実に向けて意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。	授業規律の定着度 授業中の発言等
思考・判断	家庭や地域の生活について見直し、課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	課題や授業プリント 授業中の発言
技能・表現	家庭や地域の生活を充実向上するため必要な基礎的・基本的な技術を身につけている。	実習活動の観察 実技テスト
知識・理解	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するため必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。	定期テスト 課題や授業プリント

(3) 評定の出し方について

<p><b>考查ポイントの具体</b></p> <p>○定期考査(100点)を、40ポイントとする。</p>
<p><b>平常点ポイントの具体</b></p> <p>○提出物、課題、授業態度、実習の取り組みをそれぞれポイントにより評価し、60ポイントとする。</p>

平成27 (2015)年度 シラバス

教科・科目名	情報・情報A	学年・学級	5年・全クラス	単位数	2
<b>1 年間の学習目標・履修上の注意等</b> 前期 (4月～9月) : 情報機器の基本の習得に重点をおき、キーボード練習、インターネットブラウザソフト、文書作成ソフト、ファイル管理、表計算ソフトの実習をすすめる。また、実習を進める上で、情報に対するモラルやエチケット、情報機器のしくみや情報のデジタル化などの学習を進める。 後期 (10月～3月) : コンピュータのより実践的な活用に重点をおき、プレゼンテーションソフト、Webページ作成等の実習をすすめる。また、ネットワークの仕組みやその歴史、法規や社会への影響についても学習する。 キーボード練習については年間を通じて行う。					
使用教科書・副教材等	教科書: 社会と情報 (実教出版: 302) 副教材: 基礎からはじめる情報リテラシー2010 (実教出版) 高校情報A学習ノート (実教出版)				

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	考查に出題する要点 (合格ライン)
前期	4	オリエンテーション	・PCの基本操作に慣れる ・情報に対する基本的なモラルについて理解する ・情報社会における個人のモラルについて理解する	・キーボード、マウス操作、日本語入力 ・タイピング練習 ・共有フォルダの利用方法 ・情報社会におけるモラル	第2回 回 考 査	・コンピュータの基本操作や用語を理解している
	5	文書作成ソフトの利用	・文書作成ソフトを使えるようになる ・情報とメディアの関係、メディアの特徴を理解する	・文書作成ソフトの利用 ・各メディアの特性 ・情報の信憑性、信頼性		・文章作成ソフトで作品を作成できる ・メディアの特徴について理解している
	6	メディアのしくみ	・情報とメディアの関係、メディアの特徴を理解する	・各メディアの特性 ・情報の信憑性、信頼性		・デジタル情報の仕組みを理解している
	7	情報機器とデジタル表現	・コンピュータや、デジタル情報のしくみについて理解する	・PCの基本構成 ・文字、音、画像のデジタル化 ・デジタル情報の特徴		・課題の解決方法を考察・評価できる
	9	問題解決の工夫	・問題解決の意味を理解する ・表計算ソフトを利用できるようになる	・問題解決の方法と手段 ・表計算ソフトのデータ形式		・問題解決に情報機器や表計算ソフトを活用できる
		問題解決の実践	・具体的な課題に対して、解決方法を考察できるようになる ・問題解決に情報機器を活用できるようになる	・問題解決のための情報収集 ・表計算ソフトの罫式 ・表計算ソフトのグラフ		
		タイピングテスト 期末考査				

後期	10	プレゼンテーションの作成	・ソフトウェアを利用してプレゼンテーションできるようにする	・プレゼンテーションソフト作品の制作 ・静止画、アニメーションの利用	第4回 考 査	・プレゼンテーションソフトを利用して発表できる
	11	コミュニケーションとネットワーク	・情報技術の発達の歴史、その社会で利用されるコミュニケーションについて理解する	・情報技術の歴史 ・ネットワークコミュニケーションの特徴と仕組み		・情報技術の歴史やネットワークコミュニケーションについて理解している
	12	Webページの作成	・Webページを作成できるようにする	・ホームページビルダーを利用したWebページの作成		・Webページを作成できる
		法規とセキュリティ	・情報社会における法律とネットワーク技術について理解する	・知的財産権をはじめとする、様々な法律 ・情報セキュリティ技術		・情報社会における法律とネットワーク技術について理解している
		情報システムと人間	・実際に利用されている情報システムとそれらの問題点について理解する	・行政や企業の情報システム ・サイバー犯罪の種類と具体例、受信者のリスクや対策		・情報社会で使われるシステムとその問題点について理解している
		タイピングテスト 期末考査				
【課題・提出物等】					・授業中作成した実習課題 (作品)	
【年間を通しての評価方法】					定期考査、実習課題 (作品)、提出物、授業への取り組みの様子、出欠席状況等で評価し、各学期ごとの成績を総合して年間の学習成績とする。	

(2) 評価の観点・内容・および教科方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	パソコン操作や情報通信技術に関するさまざまなことがらに高い関心をもつことができるか。授業・実習に意欲的に取り組み、知識・技能の向上に努め、より深く理解しようとしているか。	実習作品、考査、授業への取り組みの様子、その他提出物により評価する。
思考・判断	実習などを通して、情報通信技術に関する様々な事柄を論理的・総合的に考察できるか。また、情報モラルを身に付け適正な判断ができるか。	実習作品、考査、授業への取り組みの様子、その他提出物により評価する。
技能・表現	実習などを通して、パソコン操作の技能を修得しているか。パソコン操作の方法や実習作品の表現形態などに工夫がみられるか。	実習作品、考査、授業への取り組みの様子、その他提出物により評価する。
知識・理解	パソコンや情報通信技術等についての仕組みについて理解し、著作権や情報モラル等の知識を身につけているか。	実習作品、考査、授業への取り組みの様子、その他提出物により評価する。

(3) 評定の出し方について

考査ポイントの具体 ○ 定期考査 (100点) を40ポイントとする。
平常点ポイントの具体 ○ 提出物、課題、授業態度をそれぞれポイントにより評価し、60ポイントとする。